

第五十回帝國議會
衆議院

治安維持法案(政府提出)委員會會議錄(速記)第六回

會議

大正十四年三月四日(水曜日)午前十時
四十五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 前田 米藏君

理事 廣瀨 德藏君

理事 土屋 興君

理事 吉田 眞策君

理事 本田 義成君

理事 板野 友造君

田中 善立君

清水留三郎君

山根 儀重君

手代木隆吉君

杉浦 武雄君

中村 嘉壽君

內田 信也君

熊谷 巖君

山崎達之輔君

出席國務大臣左ノ如シ

司法大臣 小川 平吉君

出席政府委員左ノ如シ

內務省警保局長 川崎 卓吉君

司法政務次官 熊谷 直太君

司法省刑事局長 山岡萬之助君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

山口 政二君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

治安維持法案(政府提出)

○前田委員長 ソレデハ昨日ニ引續キ
治安維持法案ノ委員會ヲ開會致シマス、
清瀨君カラ議事進行ニ付テ發言ヲ要求
サレテ居リマスカラ許シマス

○清瀨委員 昨日內務省ノ政府委員ヨ
リシテ、治安維持法反對ノ運動ガ露國
トノ聯絡アルカノ如キ言語ガアッタノデ
アリマス、私今速記課ニ於テ閱覽ヲ願
ヒマシタガ、速記課ハ未ダ完成シテ居
リマセヌケレドモ、其趣旨ノ言語アリ
シコトハ明瞭デアリマス、而シテ其根
據ハドウデアアルカト云フト、警察ノ機
密デアアルカラ言ヘナイト仰シヤッテ居
ルノデ、吾々ハ秘密會ニスルコトモ
異存ハナイノデアリマスガ、ソレモ
致サレナイノデアリマス、其根據甚ダ
薄弱ナルモノト認メタノデアリマス、
私自身モ既往治安維持法阻止ノ運動ノ
一部ニ關與シテ居ルト申シマシテモ誤
リハナイカト思ヒマス、現ニ議會關係
ノ新聞記者諸君、議員、院外ノ有志ト集
マツテ議場外ニ於テ此法案ノ通過ヲ心
配致シマシテ、阻止運動ヲ致シタコト
ガアルノデアリマス、私共ハ我國勞働
團體ノ二三ノ首腦トモ會見シマシタカ
ラ、ソレデ能ク能ク調ベマスルト、飛ン
デモナイ事デ、露西亞ノ方カラ治安維
持法反對ノ運動ヲスルト云フヤウナコ

トハ毛頭ナイト云フコトヲ私ハ確信ヲ
致シマスガ故ニ、私此處ニ申上ゲルノ
デアリマス、今ヤ露國ト新タニ條約ヲ
締結致シマシテ、昨日モ本會議ニ於テ
之ヲ祝スル決議マデ致シタノデアリマ
スガ、此政府委員ノ言語ハ相當重大ナ
ルモノデアアル、幸ヒ是ハ委員會ノコトデ
多ク世ニ知ラレテ居リマセヌカラ、委
員長ヨリシテ此言語ノ取消ヲ政府ニ勸
告セラレタイト思ヒマス、若シ政府ガ
其勸告ニ聽カレナケレバ、或ハ本會議
ニ於テ之ヲ決議シナケレバナラヌト思
フノデアリマス、吾々ハ現政府ヲ支持
スルモノデアリマスケレドモ、遺憾ナ
ガラ、此言ヲナスノデアリマスカラ、能
ク圓滿ニ局ヲ結バレルヤウニ、委員長
ニ於テ御取計ヲ願ヒタイト思ヒマス

○前田委員長 其御希望ハ承知致シマ
シタ

○清瀨委員 モウ一ツノ是ハ後ニ私ノ
質問ニ出ルノデアリマスガ、斯ウ云フ
コトヲ政府ノ便宜ノ爲ニ申シテ置キタ
イト思ヒマス、私ハ後ニ英吉利ノ勞働
黨、獨逸ノ勞働社會民主黨ノ綱領、及ビ
學者側デ「イーラー」「モンゴメリー」等
ノ社會改良案、之ヲ政府ニ御示シ、テ
果シテ今ノ政府ガ制度ノ變更、私有財
產ノ制限否認ト云ハル、モノニ是等ガ
牴觸スルモノデアアルカト云フコトヲ聽

キタイノデアリマス、然ルニ是ハ餘程
大部ニナツテ居リマシテ、直ニ御答ヲ願
フコトハ御迷惑ト思ヒマスカラ、茲ニ
翻譯シタモノヲ差上ゲマスカラ御覽下
サツテ、午後ニデモ御答辯ヲ願ヒタイノ
デアリマス、私ノ今出シマスモノヲ申
上ゲマスルト、一ハ米國ノ「イーラー」
ノ社會改良綱目デアリマス、二ガ英吉
利ノ「モンゴメリー」一派ノ改革案デア
リマス、三ガ「ラック」及ビ「ワッツ」ノ改
革案デアリマス、四ガ有名ナ英國勞働
黨ノ「勞働及ビ社會秩序」ト題シタ勞働
黨宣言デアリマス、五ガ獨逸ノ合同社
會民主黨ノ新綱領デアリマス、尤モ此
新綱領ノ中デ共和政體ノ維持ト言ッテ
居リマスガ、我國デハ反對ニ君主政體
ノ維持ト云フコトニシテ、政府ノ思ッテ
居ラル、政體ニ關スルカドウカ、斯ウ
御解釋ヲ願ヒマス、六ガ社會政策ノ新
綱領ト題シタルモノデアリマス、其
中ノ四ノ勞働ト新社會秩序ト云フモノ
ハ別ニ此所ニ全文ヲ翻譯シタモノガア
リマスカラ、ソレヲモ參照願ヒタイト
思ヒマス、能ク內務大臣ナドハ勞働者
ニ適合セヌ、勞働者ニ誤解シテ居ルト
云フコトヲ言ハレルガ、我國ノ勞働運動
家ハ普通選舉實施ノ曉ニ備ヘルベク政
黨ノ組織ニ著手シテ居ル、是等ノ政黨
組織後ニ於テハ矢張り英吉利勞働黨、

獨逸社會黨ノ如キ政策ハ將ニ揭ゲン
ト欲シテ居ルモノト思ヒマス、是等ガ此
法律ニ觸レルト云フコトニナルト、來
ルベキ新政黨ノ實現ヲ壓迫スルト云フ
コトニナル、是ハ具體的實際問題デア
リマスガ故ニ、之ヲ午後マデニ能ク御
覽ノ上ニ、牴觸スルナラバ何故ニ牴觸
スルカ、私デハナイ世間ノ人ニ納得ノ
行クヤウニ御説明ヲ願ヒタイト斯ウ思
フノデアリマス——昨日山岡政府委員

ニ本案ト陪審法トノ關係ヲ御調ヲ願
テ置キマシタガ、アノ點ニ付テハ如何
デアリマセウカ
○山岡政府委員 法定陪審ハ陪審法第
二條ニ規定シテアリマスガ、本案ノ刑
罰ハソレニハ這入リマセヌ、所謂任意
陪審デアリマス

○清瀨委員 此陪審法四條ヲ見マスル
ト、刑法ノ第一章乃至第四章ノ犯罪、大
審院ノ特別權限ニ屬スル犯罪、斯様ナ
ルモノニハ陪審ヲ附セザル主義デアリ
マスガ、即チ朝憲案亂罪ニハ附セナイ

主義デアリマスガ、又其豫備陰謀モ同
様デアリマスガ、考ヘテ見マスルト暴
力デ以テ日本ノ政府ヲ顛覆スル陰謀ト
云フモノハ私ハ實ハ此法律ト殆ド同ジ
モノデハナイカト思フ、此法律ノ重ナ
ルモノハ矢張言論デスルモノモ這入ル
ト仰シヤリマスガ、矢張暴力デ以テ國
憲ヲ顛覆シヤウ、朝憲ヲ案亂シヤウト
云フ結社ガ罰セラレル、陪審法第四條
ノ軍器保護法トカ、或ハ刑法第二編第

一章乃至第四章ノ罪ニ付テ陪審ニ附セ
ナイ、是等ノ考カラスレバ是又陪審ニ
附セラレザル種類ニ這入ルノデハナイ
カ如何ナモノデアリマセウカ、其御見
解ヲ承リタイト思ヒマス

○山岡政府委員 朝憲案亂安寧秩序ノ
案亂ノ罪ヲ陪審ニ附スベキヤ否ヤ、是
ハ立法上ノ非常ニ重大ナ問題デアリマ
ス、即チ民衆ヲ代表スル所ノ人ニ依ッテ
斯ノ如キ事項ヲ判斷セシムベキヤ、或
ハ官吏ヲ以テ構成スル裁判所ニ依ッテ
判斷セシムベキヤ、是ハ餘程考慮ヲ要
スル問題デアリマス、所デ今日ニ至リ

マシテハ我國ノ陪審法ハ既ニ制定セラ
レマシテ、法律トナッテ居ルノデアリマ
ス、此關係ヨリシテ本案ニ依ッテ規定セ
ラレタル罪ヲ陪審ニ附スベキヤ否ヤヲ
決メナクテハナラヌ譯デアリマス、ソ

コデ只今ノ御質問ニ對シテ御答ヲ致シ
マスガ、即チ刑罰方面カラ見タ朝憲案
亂ニ付キマシテハ、御説ノ如ク陪審裁
判カラ除外セラレテ居ルノデアリマス
ガ、取締方面カラ見タル朝憲案亂ノ事項
即チ本案ニ規定スル所ノ罪ガ刑法關係
即チ刑罰關係ノミデアルカ、或ハ取締
關係モ含ムカ、此問題ニ付キマシテハ
取締ノ關係ガ餘程重大ナル意義ヲ持ッ
テ居ルト云スコトヲ段々申上ゲテ居ル
次第デアリマス、ソレデアリマスカラ
シテ之ニ付キマシテハ、別ニ之ヲ陪審ヨ
リ除外スルト云フコトニシテ居ラヌ譯
デアリマス

○清瀨委員 今取締關係ト仰シヤル
ガ、全體十年ノ刑ヲ以テノ刑法關係、委
員長ノ嘗テ御質問ナサレタ通りノ刑法
總則ヲ適用スル罪デアアル、若シ陪審法
トノ關係ヲ考慮スルト云フコトヲ御忘
レニナッタナラバ——マダ、此審議

ハ初メテデアリマスカラシテ、吾々ハ
政府ヲ支持シ應援スルニ各ナラヌノデ
アリマスカラ、斯ノ如キ片跛ナモノヲ
一旦出シタカラト云ッテ、負惜ミヲヤッ
テ行カレルコトハ甚ダ遺憾デアアル、取
締犯ナラバ結社ニ一旦解散ヲ命ジテ、
解散シナイ時ニ罰スルナラバ取締犯デ
アル、サウ云フ手續ヲ取ッテ居ラヌデ、

結社ガアッタラ直グ罰スルノデアアルカ
ヲ取締犯デハナイ、取締犯トサレルナ
ラバ獨逸ノ千九百二十一年ノ法律ノヤウ
ニ、一旦解散ヲ命ジテ聽カナイ場合ニ
罰スルト云フコトデナケレバ取締犯ト

云フ譯ニ行カヌ、一體取締ト云フト甚
ダオカシイ、オカシイガ若シ取締ト云
フ言葉ヲ使ヘバソレデス、斯ノ如キ
結社ガアレバ之ヲソレ縛ル、斯ノ如キ
煽動ガアレバ即チ獄ニ投ズル、同ジク刑
法犯デアリナガラ矢張暴力ヲ以テ政府
ヲ顛覆スル其陰謀是ガ即チ刑法ノ第八
十七條同ジク暴力ヲ以テ政府ヲ顛覆ス
ル結社、私ハ結社モ陰謀ノ一ツダト思ッ
テ居リマスガ、ソレハ陪審ニ附セナイ、
ソレナ片跛ナコトガアラウ筈ガナイ、
是ハ斷ジテ申シマスガ、政府陪審法ノ
關係ヲ考慮セララル、コトヲ御忘レニナッ

タノデアリマス、再ビ考慮シテ然ルベ
キ修正ヲ政府トシテ自カラ御提案ニナ
ルカ、極言スレバ此法案ヲ撤回ナスッテ、
二三日ノ猶豫ヲ置キマスカラ又御出シ
ニナラムコトヲ希望スルノデアリマス、
モウ一ツ本法第一條ニ未遂トアリマス
ガ、具體的ニドウ云フモノヲ御考ニナッ
テ居リマスカ

○山岡政府委員 陪審法ノ關係ニ付テ
考慮ヲシナカッタト云フコトデアリマ
スガ、其點ニ付キマシテハ昨日大體ハ
法定陪審ニナッテ居ラヌノデアアル、ト御
答シタノデアアル、此處ニ陳述スルコト
ハ多少ナリトモ信念ナク御答ヲスルコ
トハ避ケナケレバナラヌノデアリマス

カラ、大體ニ於テ斯ウデアルト云フ御
答ヲシタノデス、ソレヲ以テ政府ハ
陪審法ト治安維持法トノ關係ヲ考慮シ
ナイト云フ御推測ヲ受ケルコトハ甚ダ
遺憾ニ考ヘマス、即チ陪審法制定ハ司
法省トシテハ是ハ長ク問題デアッタノデ

アリマス、一面ニ於キマシテハ過激社會
運動取締法案ヲ二三年前ニ出シマシタ
此時カラ常ニ兩者ノ關係ハ考ヘテ居ル
ノデアリマス、ソレデアリマスカラシ
テ此法案ガ實質上ニ於ケル過激社會運
動取締法ト重大ナ差異ガアリマスケレ
ドモ、併ナガラ其罪ノ性質ニ至ッテハ代
リガナイ、サウ云フ長イ沿革ヲ持ッテ今
日ニ至ッテ居ルノデアリマス、陪審法ト
ノ關係ヲ考ヘザルガ如キコトハ斷ジ
テナイコトデアリマス、サウ云フ次

第アアリマシテ之ヲ陪審ニ附スルヤ否
ヤニ付キマシテ清瀬君ノ御説ガアリマ
シタケレドモ、爆發物ヲ使用シタル犯
罪ノ如キ、是ガ警察官カラ差止ヲ受ケ
ザルモ法ノ適用ヲ受ケルコトハ明瞭デ
アリマス、サウ云フ次第デアリマスカ
ラ、刑ガ重イ一事ヲ以テ取締罰デナイ
ト云フ譯ニ參ラヌト政府ニ於キマシテ
ハ考ヘテ居リマス、勿論此處ハ見解ノ
差異ト云フコトニナルデアリマセウ、
政府ノ見解ニ於キマシテハ、此目的ト
スル所ノ現在ノ社會狀態ニ於ケル特殊
ノ現象ヲ取締ラントスル爲ニ制定スル
ノデアリマス、ソレカラ尙ホ此未遂罪ノ
コトデアリマスガ、結社ヲ組織スル
云フコトニナリマス、其結社ノ目的ト
スル所ノ事項及組織ノ關係ヲ極メテ、サ
ウシテ之ニ多數ノ人ガ結合シタ、結社
ヲ組織シタ罪、即チ其創立ノ準備、設立
ノ準備ト云フモノヲシテ居ル間之ガ結
社ノ成立ト云フコトニ分離ガ出來ナイ
○清瀬委員 前段ノ事ハ希望ヲ申シタ
ノデアリマスケレドモ、御辯明ガアリ
マシタカラ更ニ申シマス、政府ガ取締
法ノ犯罪ナラバ陪審ニ附セナイト仰シ
ヤルノデアリマスガ、附セルト仰シヤ
ルノデアリマスガ

本人ハ陪審ノ裁判ヲ受ケヤウト思ヘバ
受ケラレ、本人ガ嫌ナラバ受ケナイデ
モ宜イ、本人ノ意思次第自由自在ニ
ナルノガ取締法デアリマス、取締法ノ
理論カラ見レバ取締アルカラ陪審ニ
附セナイ、最モ社會制裁的ノ目的ヲ以
テ被取締人ノ任意デ陪審ヲ受ケテモ
宜イ、受ケヌデモ宜イ、ソレト結付ケ
テ議論ヲサル、根據ハドウデアリマス
カ、私ハ取締法ダカラ本人ノ御勝手次
第ト云フコトガ一體取締ニナルデア
リマスガ、一體ドウ云フ論理デアリマ
スカ
○山岡政府委員 其處ヘ行クト意見ノ
別レニナリマス、只今述ベマシタ點ハ
今日迄ノ陪審法ニ於ケル立法ノ關係ハ
左様ニナッテ居ルカラ、此立法ノ關係ニ
從ッテ考慮シタ、斯ウ云フデアリマ
ス、即チ陪審法ガ適當デアルカ適當
デナイカト云フ問題ニナルデアリマ
ス、ソレ故ニ疑ニ御斷リ致シタノデア
リマス、詰リ陪審ニ附スルヤ否ヤト云
フコトハ陪審法ノ制定前デアリマスレ
バ、餘程問題トシテ考ヘナケレバナラ
ヌト、斯ウ云フ説明デアリマス
○清瀬委員 餘リ陪審法バカリ申シテ
恐縮デアリマスガ、全體陪審法ノ四條
ヲ能ク御精査ヲ願ヒタイ、サウシマス
ト私ノ議論ヲ御聽キニナラヌデモ分リ
マス、陪審法ノ四條ガ刑法ノ二條三條
ト照應致シマシテ、二條三條ノヤウナ
協議ヲ爲シタ者ヲ罰スルト云フヤウデ

アリマスルガ、陪審ヲ不當トシテ陪
審ヲ除外サレテ居ル、又外國人ニハ陪
審ヲ採ラナイ、ソレデドウナルカト云
フト、本法ノ第六條ニアルモノハ刑法
ノ第二條第三條ニモ出來テアルデア
リマス、デアリマスカラシテ説明ハド
ウ御シヤッテモ矢張此法ヲ實行シヤウ
ト思ヘバ、第四條ニ一條ヲ追加シナケ
レバ實行出來ナイト云フコトガ明ナ道
理ト思ヒマス、何時マデモ之ニ固著シ
ナイデ未遂ノ問題ニ移リマスガ、今ノ
御説明デハ、サウスルト結社ノ未遂ト
云フコトハ第三條ノ「協議」ト云フコ
ト、同ジヤウニナリマスガ如何デアリ
マスガ
○山岡政府委員 第二條ノ「協議」ノ方
ハ第一條ニ規定致シテ居ル事柄ヲ實行
スル事ニ向ッテ活動スル關係デアリマ
ス、其協議ヲスル、其直接ノ協議ヲスル
規定デアリマシテ、第一條ノ方ノ未遂
關係ハ結社ヲ結ブヤウニスル、組織ス
ルト云フヤウニスルト云フコトニ付テ
準備協議スルコトニナリマス、二者ノ
間ニ差違ガアリマス
○清瀬委員 第二條ノ方ハ一人デヤ
ル、單獨デ日本帝國ノ國憲ヲ破壞スル、
又代議政體ヲ否定スルコトハ出來ナイ、
矢張結社ノ多數ノ力ニ依ラナケレバナ
ラヌ實質ニ於テハ——言葉ノ上ニ於テ
ハ結社ノ協議ヲスルモ、或ハ團體ヲ紊亂
スルト云フモ、言葉ノ上デハ違ウカモ
知レマセヌガ、實物ハ同一ト思ヒマス、

私ハ第一條ノ未遂ノ條項ハ全ク無用ノ
ヤウニ考ヘテ居リマス、又私ノ疑ヲ解
ク能ハザリシハ遺憾ト致シマスガ、是
ハ見解ノ相違ニナリマセウカラ、又他
ノ質問者モ來ラレヌヤウデアリマスガ
ラ、モウ一ツ憚リデアリマスガ伺ヒマシ
テ後ハ午後ニ致シタイ、是モ大臣ハ質問
ニ牽聯致シテ居リマスガ、我國ノ私有財
產制ト云フモノハ、憲法ノ第二十七條
ガ其規則デナクシテ、明治以來大正ニ
至ルマデ各種ノ法律ニ依ッテ出來テ居
ル、又私有財產制度ノ御説明ヲ承ッテモ、
法律ハ法律ヲ以テ變更シ得ル、今ノ私
有財產制ノ根柢ト云フモノハ民法ガ其
主ナルモノデアリマス、是等ヲ變更シヤ
ウトスレバ、法律變更ノ權能ヲ持ッテ居
ル立法機關デアリマスカラ、左様ノモ
ノ、改正ハ如何デアルカ、ソレガ出來
ルトスレバ相當政黨ノ綱領ニ掲ゲナケ
レバナラヌト思ヒマスガ
○山岡政府委員 其點ハ私有財產制度
ノ根本ヲ否認スルコトハ第一條ニ於テ
禁止シテ居ル、根本ニ關スル改正ヲス
ルトハ議會ノ權能ノミデハ確ニ出來
ナイト云フ見解ヲ政府ハ持ッテ居ル譯
デアリマス、ソレデアリマスカラシテ、
法律ヲ以テ——憲法以外ノ法律ヲ以テ
ハ變更出來ナイ、私有財產制ノ根柢ニ
アルモノヲ除イテ、他ノ財產關係ヲ變
革スルト云フコトヲ政黨ニ於テ綱領ニ
掲ゲルトカ、其他ノ方法ヲ採ルコトハ
差支ナイコトデアリマス

○清瀨委員 マダアリマスガ、政府ノ大臣ニ關スル質問ハ委員長ノ御許ヲ得マシテ午後ニ留保致シマス

○前田委員長 此際川崎政府委員ニ御相談ガアリマスガ、先程清瀨委員ヨリ議事進行トシテ發言ニナリマシテ、昨日川崎政府委員ノ當委員會ニ於ケル説明中、此治安維持法反對ニ關スル露西亞方面ノ情報ニ付テノ御發言ニ對シテ、御取消ニナルト云フ御考ハナイカ、成ベク議會ニ於テ御取消ヲ望ム、御取消ニナルヤウニ委員長ニ於テ取計ヘト云フコトデアリマスガ、川崎政府委員ノ御意見ハドウデアリマスカ

○川崎政府委員 先日ノ申上ゲタコトハ確ナコトハ疑ガナイガ、此治安法ニ對シテ露西亞方面カラ——サウ云フ方面ニ於テ此規則ノ出來マスコトヲ阻止シタリト云フ情報ハアルノデアリマス、ソレガ併シ影響ヲ及シテ居ルカ、其事ハ特ニ調ベタコトハナイト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、唯、御質問ガアリマシタカラ有リノ儘申上ゲタ方ガ宜カラウト云フコトヲ考ヘマシテ、向フカラサウ云フ情報ガアルト云フコトヲ申上ゲタ、其事柄ガ果シテドウ云フ事實ガアルカト云フ確ナコトハ分ラナイト云フ風ニ申上ゲタ積リデアリマス

○清瀨委員 今確ナコトハ分ラナイト仰シヤッタガ、昨日ハサウ云フ情報ガアッタ、ソレデ私ハ其情報ノ原本ヲ見セロト云ッタ所ガ、ソレハ警察ノ祕密ダカラ

見セラレナイ、言葉ハ幾ラカ緩和サレテ居リマスガ、政府ガサウ云フ不確ナ事ヲ仰シヤッタハ洵ニ混同ヲ生ジマス、不確ナ事ヲ仰シヤルヤウデハ、吾々與黨トシテ政府ヲ信用スル者ハ片言隻語ト雖モ之ヲ尊重シテ、速記録ヲ一々讀ンデ居ルノデアリマスカラ、必要ノナ

イ事ハ潔ク御取消ヲ願ヒタイ、若シ御取消ガナケレバ必ズ本會ノ問題ト致シマス、斯ルコトヲ政府與黨トシテ申シマスコトハ甚ダ遺憾ニ存ジマスガ、此治安維持法案ニ對シテハ吾々及ビ吾々ノ友人ハ心配シテ活動ヲシテ居リマス、斯ウ云フ際ニ於キマシテサウ云フ不確ナ事ヲ仰シヤリマシテハ非常ニ困ルカラ、何トカ御取消ヲスルヤウニ願ヒタイ、左様ナ事ヲ公開サレルコトハ洵ニ遺憾デアリマス

○川崎政府委員 情報ノアッタカナカッタカ不確デ申シタノデアリマセヌ、情報ガ確ニアッタ、併ナガラ其事柄ハ此方ニドウ云フ影響ガ來タカ、果シテアルカナイカト云フコトハ分ラナイ、情報ハアリマシタ

○清瀨委員 信ズベカラザル情報ヲ委員會ニ發表ナサルコトガイケナイ、御取消シニナラナイナラバ、私ハ斷然本會ノ問題ト致シマス、午後マデ考慮ノ時間ヲ與ヘテ置キマスカラ、大臣トモ御協議ノ上何分ノ御返事ヲ願ヒタイ

○前田委員長 大分質問者ガアルノデアリマスガ、マダ御出席ガナイヤウデ

アリマスカラ、順デハアリマセヌケレドモ、前順者ガナイカラ廣瀨德藏君ニ許シマス

○廣瀨委員 私ハ今度補闕トシテ委員ニナッタノデアリマスガ、詳シク質問應答ハ聞イテ居リマセヌケレドモ、大體ハ速記録ニ依ッテ從來ノ經過ハ略々知ッテ居リマス、大抵ノ事項ニ付テハ各員ガ既ニ觸レテ居リマスケレドモ、尙ホ重要ナル數點ニ付テ政府ノ意見ヲ質ス必要ガアルト存ジマス、本案第一條ニアル「國體政體」ト云フ文字ハ屢々政府ノ御説明ニ依ッテ意義ハ大體明ニナッテ居リマスガ、立案ノ趣意ハ明瞭ニナッテ居ルガ、併ナガラ世間デ之ヲ解釋シテ居ルノハ又自ラ違ッタ考ガ起ルカモ知レナイト云フ疑ガアル、ソレハ何故カト云フト法典ノ上ニハ國體政體ト云フコトハ餘リ使ハレテ居ラヌヤウデアリマスケレドモ、學問ノ研究上、向學上ニ於テハ常ニ使ハレテ居ル文字デアアル、而シテ其用語例ハ一定シテ居ラナイ、現ニ我國ノ憲法學者ノ間ニ於テモ其說ガ全ク違ッテ居ルノデアリマス、一二學者ノ說ナドハドウデモ宜イカモ知レマセヌガ、是ハ我國ノ治安ヲ維持スル法律デアリマスカラ、我國ノ憲法學者ノ說ナドモ之ヲ等閑ニ見ルコトハ出來ナイ、私ノ知ル範圍ニ於テハ政府ノ立案ノ御趣旨ノ如ク、國體ハ統治權ノ所在ニ關スル區別デアアル、政體ハ統治權ノ行使ノ形式ニ關スル區別デアアルト云フ

ヤウナ風ニ言ッテ居ル學者モ無論多數ニアルノデアリマスケレドモ、又之ニ反對シテ統治權ノ所在ハ共和制ト雖モ、君主制ト雖モ、總テ國家ニアルノデアル、隨テ國體ノ區別ハナイ、唯、政體ノ區別アルノミデアアル、君主制ト云ヒ、共和制ト云フノハ總テ政體ノ基礎、國體ノ基礎デアアルト主張シテ居ル者ガアル、是ガ詰ラナイ一二ノ學者デアリマスレバ、世上疑ヲ生ゼヌカモ知レマセヌガ、東大ノ教授美濃部達吉博士ハ昔カラ此說ヲ固持シ主張シテ居ルノデアリマス、而シテ此說ニモ亦道理ガアルガ、政府ハドウ云フ御考ヲ以テ此文字ヲ御使ヒニナッタカ、他ノ法典他ノ用語例トノ關係等ヲ示シテ此文字ヲ使ハレタ根據ヲ御示ヲ願ヒタイト思ヒマス

○山岡政府委員 國體ト云フ文字ヲ法文ニ使フト云フコトハ是ガ初テアルト思ヒマス、隨テ只今御質問ノ如ク、學者間ニ議論ノアル文字ヲ使フトコトガ適當デアアルヤ否ヤト云フコトノヤウニ伺ヒマシタガ、國家主權說ト君主主權說ト云フ點ニ於テ學說ガ分レテ居ルコトハ只今御說ノ通りデアリマス、有力ナル學說デアリマス、併ナガラ學說ノ如何ニ付テハ政體ト云フ文字ヲ以テ國家ノ統治權ノ作用ヲ全部籠メテ使フノデアリマス、之ヲ國體政體ニ分ケル學說ニ於テハ、政體ナルモノカラ國體ヲ抜カシテ政體ヲ狭クスル、サウ云フ次第デアリマスカラ國體カラ引離シテ使ヒ

マスト云フト、國體カラ政體ハ離レテ

政體ハ狹イ意義ニナツテ來ルノデアリマス、說デアリマスカラ學說ハアリマス、ケレドモ、斯ノ如ク書キ表スト自ラ二者ニ意義ガ分レテ來ルト思ヒマス、而シテ其國體ガ如何ナル意味デアルト云フコトハ段々申上ゲタウニ、憲法第一條ニ於テ君主ガ帝國ヲ統治ス、斯ウ云フ事柄ヲ指スノデアリマス、其事柄ヲ除イテ茲ニ政體ト云フ字ガ狹ク現ハレルト云フコトニ考ヘルノデアリマス、此法律ニ於テ初メテ國體ト云フ文字ヲ使ヒ、而シテ左様ナ意味デアルト云フコトニ御承知ヲ願ヒタイ

○廣瀨委員 私ハ成ベク爭ノナイ字ヲ使ツテ法典ヲ作ルコトヲ希望スルモノデアリマス、其點ニ付テハ尙ホ私共モ考慮シ、政府モ考慮セラレンコトヲ望ミマスガ、政府ノ御説ノ如クニツ分ケテ使フ場合ニ於テハ、意義自ラ明瞭デアルト云フコトデアリマス、此政體ハ學者ノ言フガ如ク統治權行使ノ形式デアアル、或ハ統治機關ノ組織ノ區別デアルト云フヤウナコトニ歸スルト思ヒマスガ、サウ云フ意味ニナルノデアリマス

○山岡政府委員 御説ノ通りデアリマスガ、附加ヘテ申上ゲマス、サウ云フ廣イ意味ノコトガ政體ト云フ文字カラ離レルノデアリマスガ、唯變革ト云フ文字ニ於テ根本ヲ改メルコトデアルト云フコトヲ在來説明申上ゲテ居リマス

ラ、ソレダケ申上ゲマス

○廣瀨委員 速記録ニ依ツテ見マスレバ具體的ノ場合ヲ色々示シテ、政府委員ニ對シテ口述試驗ヲ行ツテ居ルヤウナ感ガアリマスガ、將來起ル事柄ハ必ズシモ吾々ガ今想像スル場合バカリデハナイト思ヒマスガ、今其出テ居ル例ヲ申スト、同ジ統治機關デアツテモ貴族院ヲ廢スルト云フコトハ差支ナイガ、衆議院ヲ廢スルト云フヤウナ金ハイケナイノデアアルト云フ風ニ答辯サレテ居リマス、而シテ其意味ハ代議政體ハ民選議員ガアルコトヲ要スルノデアアル、民選議員ガ寄ツテ組織シテ居ル議會ガアル限り、ソレガ一院デアルト二院デアルト、立憲政體タルニ妨ガガナイト云フコトニ依ツテ答辯ナサツテ居ルヤウニ思ヒマスガ、是ハ法律ノ問題デ、政治ノ問題デハナイノデアアルカラ、我國ノ法律ヲ解釋スルト云フ上ニ當リマシテハ、單ニ政治上ノ學說ダケヲ以テ之ニ當ルコトハ出來ナイ、常ニ具體的ノ問題トシテ我國ノ憲法ノ上カラ之ヲ判斷シナケレバナラヌト云フコトニナルノデアリマス、之ヲ我國ノ憲法ノ上ヨリ見ルト帝國議會ハ貴衆兩院ヲ以テ組織シ、衆議院ハ僅ニ豫算ノ先議權ヲ持つテ居ルニ止マル、其他ハ總テ權限ガ同様デアル、故ニ何方ガ重ク、何方ガ輕イト云フ區別ハナイノデアアル、然ルニ一ハ之ヲ廢シテモ差支ナイガ、一ハ廢止シタナラバイケナイノデアアルト云フ根據ハ、法律上

政治ハ暫ク措キマシテ、法律上如何ナル所ヨリ出發スルノデアアルカ、私ガ政府ノ御意見トシテ承ツタ所ガ何カ間違ッテ居レバ御訂正ヲ願ヒマス

○山岡政府委員 只今ノ御質問ハ憲法ヲ基礎トシテノ御質問デアリマス、即チ憲法ニ於テ「帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス」トナツテ居リマスガ、ソコデ法律ヲ立テマスニ付テ政體ノ問題ヲ決メマスニハ、憲法ヲ基礎トシナケレバナラヌコトハ御承知ノ通りデアリマス、憲法ヲ基礎トシテ政體ノ根本ハ代議政體ニ在リト申上ゲタ次第デアリマス、憲法ニ於キマシテモ我國ノ沿革上ノ事實カラ成立ツタモノヲ法文ニ現シテ居ルモノト、法文ニ現レマセヌデモ、其事ガ憲法ノ成立ノ全體トシテ、事實トシテ動カスベカラザル部分トガアルト考ヘマス、憲法第一條ノ國體問題ノ如キハ、憲法ガ定メタカラスノ如キ國體ガ現レタト云フニ非ズシテ、事實上、沿革上カラスノ如キ事ガアツテ、法文ハ單ニ其實ヲ示シタニ過ギナイト考ヘラレルトデアリマス、ソレト同ジコトニ形式上ニ於キマシテハ貴衆兩院ヲ以テ成立シマスケレドモ、此憲法ノ成立ツ基礎ト云フモノハ、代議政體ニ依ツテ立憲政治ハ成立ツ、此點ハ學者間ニモ異論ノナイ所デアリマス、又我憲法ノ成立モ其理論ニ基イテ成立ツタノデアリマスカラ、此事實ハ明示サレルト否トニ拘ラズ、憲法ノ精神デア

ルト考ヘマス、ソレデアリマスカラ政體ヲ變革スルト云フコトハ、變更ニ非ズシテ、單純ナル改正ニ非ズシテ根本ヲ覆スト云フ意味デアリマシテ、其意味ヲ以テスレバ政體ヲ覆スト云フコトニ申上ゲタ次第デアリマス

○廣瀨委員 ドウモ法律上ノ觀念ト政治上ノ觀念トガ混同シテ居ルヤウナ感ガアリマスガ、今マデモ斯ウ云フコトガ屢々繰返サレテ應答サレテ居ルト思ヒマスカラ、此點ハ是デ打切りマス、更ニ私有財産制度ノ否認ノコトニ付テ伺ヒタイ、洵ニ新シイ現象ニ對シテ立法サレルノデアリマスカラ、言葉ノ用ヒ方ガ非常ニ困難デアルト云フコトハ諒察スルノデアリマス、併ナガラ出來ルダケ明ニシテ置カナケレバ惑ヲ生ズルコトハ當然デアリマスカラ、私ハ尙ホ之ヲ明ニシタイト思フノデアリマス、從來ノ質問應答ニ依ツテ見マス、先ニ私ガ統治機關ノ變革ニ關シテ御問ヲシタ際ニ申上ゲタト同ジヤウニ、私有財産ノ否認ニ關シテモ、私有財産ノ總テヲ否認スルコトハイケナイノデアアルガ、一ツ一ツ別々ニ之ヲ認メナイト云フコトハ差支ナイノデアアル、具體的ノ例ヲ質問者ヨリ示シテ、土地國有、鐵道國有ハ如何デアアルカ、資本國有ト云フ文句ハアツタカナイカ存ジマセヌガ、大體私有財産ノ主ナルモノヲ別々ニ舉ゲテ政府ニ御尋シテ居ル、之ニ對シテ總テ差支ナイ、併シ一ツ一ツ別々ニ企テ、モ、結局皆

否認スルコトニナルトキハイケナイノ
デアルト云フ風ニ御答ニナツテ居ル、丁
度統治機關ノ或ル部分ハ變革シテモ構
ハヌガ、皆變革シテハイケナイト云フ
意見ト同ジヤウニ聞エルノデアリマ
ス、是非非常ニ惑ヲ生ズル、理窟カラ申
シマスト同ジ基礎觀念カラ出タ事柄
ハ、一部ノ否認デアツテモ全部ノ否認デ
アツテモ、其價值ハ同等デナクテハナラ
ナイ、然ルニ一部ハ差支ナイ、極端ニ言
ヘバ九分九厘マデ行ツテモ、一厘ノ所ヲ
殘シテ置ケバ差支ナイト云フコトハ理
論上之ヲ解スルコトガ出來ナイ、詰リ
數量ノ問題デハナクシテ、其行爲ノ
性質ノ問題デアル、性質ニ從テ之ヲ論
ジナケレバナラヌノニ、問ガ問デアツタ
カラ左様ニナツタノカハ存ジマセヌガ、
殆ド總テノ私有財産ノ種別ヲ舉ゲテ、
是非否認シテドウデアアル、此國有ハド
ウデアルト云フ間ニ對シテ總テ差支ナ
イ、此法律ニ觸レナイト云フ御答辯ガ
アル、而シテ全部ノ私有財産ヲ否定ス
ルノハイケナイノダト云フノハ、全部
ト一部トハマルデ違ッタモノデアルト
云フ風ナ考ニ歸スル、洵ニ不可解ニ堪
ヘナイ、之ニ關シテ政府ハ何カ原則ガ
アツテ、例ヘバ共產主義カラ出ルモノハ
イケナイ、或ハ社會主義、之ニモ色々ノ
分派ガアルヤウデスガ、國家ノ存在ハ
之ヲ認メテ、私有財産制度ヲ徐々ニ改
良シテ行カウト云フ穩健ナル國家社會
主義ト謂ヒマスカ、社會政策ト申シマ

スカ、國家ヲ「ネガティブ」シナイト
云フ考ヲ以テヤル場合ハ、假令大部分
ノモノヲ國有ニ歸スルコトニナツテモ、
ソレハ差支ナイガ、無政府主義若クハ
共產主義、現在ノ國家組織ヲ否定スル
ト云フ基礎觀念ニ立ツテ行フ場合ニ於
テハ、其一部タルト全部タルトヲ問ハ
ズイケナイノデアルト云フヤウナ理論
上、觀念上ノ區別ヲ立テ、是ガ答辯ヲ
爲シテ居ラレルノデアルカ、或ハ速記
録ニ現レテ居ル如ク、數量的ニ一部分
ノ場合、更ニ進ンデ言ヘバ大部分ノ場
合デモ、部分デアレバ構ハナイガ、全部
デアレバイケナイノデアルト云フ數量
的ニ御答ニナツテ居ルノデアルカ、此根
本ノ觀念ニ付テ政府ノ懷抱シテ居ラレ
ル御所見ヲ伺ヒタイ

○山岡政府委員 私有財産制度ノ否認
ハ、否認ト云フ意味デアリマスカラ、其
全體ニ向ツテ即チ根柢ヲ否定スルコト
デナケレバ本條ニ適合シナイノデアリ
マス、ソコデ一部々々ノモノヲ漸次國
有ニスルトカ、公有ニスルトカ云フコ
トハ差支ナイ、全部ノ中ノ僅ヲ殘セバ
マダ宜シイガ、全部ニ互ツテ始メテ私有
財産ノ否認ト云フコトガアルカト云フ
大體ノ御趣旨デアリマスガ、此點ニ付
テハ是マデ屢々質問應答ガゴザイマシ
タガ、結局趣旨トスル所ハ、一ツ一ツノ
問題ニ致シマシテモ、其事ガ私有財産
ノ所有ト云フモノヲ否定シテ居ル意味
デアアルナラバ、矢張本法ニ悞觸スルノ

デアリマス、即チ數量ノ問題ニ非ズシ
テ質ノ問題トシテ考慮シナケレバナラ
ヌト思フ、所有權ヲ否定スル、私有財産
ノ關係ヲ否定スルト云フ意味ニ於テ或
ルモノヲドウ云フ風ニスルト云フコ
トニナレバ行動ニ現レテ來ル、私有財
産ヲ否定シテ、其行動ガ現レテ來ルト
玆ニ行爲トナツテ刑法上問題ヲ起ス、ソ
レデアリマスカラ一部ヲ否定シタト云
フコトハ、矢張根據ノ思想ニ於テ全部
ヲ否定シタト云フ場合ニ於テハ本法ニ
悞觸スル、之ニ反シテ、例ヘバ鐵道ヲ國
有ニスル、若クハ土地ヲ全部國有ニス
ルト云フタ所ガ、之ニ對シテ所有權ノ
働ヲ否定スルト云フ場合ニハ、分量ハ
多イケレドモ本法ニハ悞觸ヲシナイノ
デアリマス、如何ナル形ニ於テ所有權
ヲ否定シテ居ルカト云フコトハ、賠償
スルト云フコトデ一ツノ形式デアツテ、
賠償シタト云フコトハ所有權ヲ否定シ
タト云フコトニハナラヌ、斯ウ云フ意
味デアリマスカラ、全部トカ一部トカ
云フコトニハ關係ハ無い、根本カラ所
有權ヲ否定スルト云フコトニ付テ、一
部ニ對スル行動ヲ始メレバ、本法ニ於
ケル實行行爲ト云フコトニナルノデア
リマス、之ニ反シテ如何ニ分量ガ多ク
テモ、所有權ヲ前提シテ活動スルバ悞
觸セヌ、故ニ私有財産ヲ改革スルト云
フ企ハ毫モ本法ニ關係シナイコトデ、
改革ト云フ言葉ハ所有權ヲ否定シテノ
改革デアレバイカヌ、所有權ヲ前提ト

シテノ改革ナラバ如何ニ改革シテモ、
本法ノ間フ所デハアリマセヌ

○杉浦委員 私人伺ヒタイト思フ所ヲ
各委員カラ御問ヲ致シマシテ、其答辯
ヲ戴キマシタガ、其中ニ論理ノ脈絡ノ
盡サレテ居ナイ點ガアリマスカラ、其
點ヲ御伺致シタイト思ヒマス、第一ニ
憲法ニ認メテ居リマスル兩議院ノ上奏
權ハ、其内容ハ如何ナル事デアツテモ
差支ナイモノデアルト解釋スベキデハ
ナイカ、從來マデ此點ヲ直接目的トシ
タノデアリマセヌケレドモ、山岡委
員ノ御答辯ニ依レバ兩議院ノ上奏權
モ、亦其内容ニ於テハ或ル制限ガ加ヘ
ラレテ居ルト云フ御趣旨ノヤウニ伺ヒ
マシタガ、此點ニ關スル憲法第四十九
條ノ解釋ノ御意見ヲ伺ヒタイ

○山岡政府委員 憲法第四十九條ニ於
ケル上奏權ノ事柄ハ、憲法ノ問題中非
常ニ重大ナルモノデゴザイマス、而シ
テ此法案ヲ議スルニ付テ關係ノ起リマ
シタノハ、犯罪ノ成立シタルコトヲ職
務行爲トシテ、違法阻却ヲ爲スベキ場
合アリヤ否ヤ、此場合ニ於テ上奏權ア
リトスレバ、其點ニ於テ違法ヲ阻却ス
ルト云フ論理ニ到著シテ、憲法ヲ變更
スル所ノ上奏ガ出來ルヤ否ヤト云フコ
トガ直接ノ問題デアリマス、此點ニ付キ
マシテハ、上奏權ガアルト云フコトヲ
前提トシテアル場合ニ於テハ、職務行
爲デアツテ、ナケレバ職務行爲デナイコ
トニナルカラ、此法案ヲ議スル上ニ於

テ、上奏權ヲ確定スルト云フコトハ、本案ニ付テハ必要ハアリマセヌ、然レドモ茲ニ一ツノ問題トナツタ以上ハ、前ニモ御答致シマシタガ、此憲法ノ變更ニ關スル上奏ハ、議會ノ權能デアルト云フコトヲ申上ゲタ次第デアリマス、ソコデ憲法ノ變更ニ付キマシテハ、議會ニ七十三條ニ依テ勅命ヲ以テ議案ガ提出セラレタ以上ハ、審議權ガアリマス、是ハ議會ノ權限ニ屬スル事項ト申シテ宜カラト思ヒマス、其意味ニ於テ、議院ノ權能ニ屬スルト申上ゲテ宜カラウト思ヒマス、ソレデアルカラ、議院ノ權能ニ關係ノ有ル事ヲ上奏スルコトハ、憲法ノ上奏權ノ範圍内ニ在ルモノト申シテ宜カラウト考ヘマス、一言附加ヘテ御參考ニ申上ゲマス、上奏權ノ範圍ニ於テハ、解釋上多少說ガアリマス、議會ノ職務上ニ於テ爲シ得ベキ事柄ヲ超過シタルコトハ出來ナイ、斯ウ云フ見解ト、上奏權ニ付テハ何等ノ制限ガシテナイノデアルカラ、如何ナル事柄デモ、總テ上奏ヲ爲スコトガ出來ル、此無制限ナル見解トアルノデアリマス、固ヨリ憲法ニ於テ制限ノ規定ノ見ルベキモノガゴザイマセヌカラ、後ノ見解ノ如キ學說ガ生ズルト思ヒマスガ、兎ニ角本問題ニ付テハ議會ニ於テ議案ヲ提出シタ以上、審議スルコトニナルカラ、上奏權ガアルト信ズルノデアリマス

○杉浦委員 此上奏權ハ議案ガ提出セラレテカラ後始メテ生ズルノデナクシテ、議案ガ提出セラレヌデモ、是カラサウ云ウ議案ガ提出セラレルヤウニナラウト云フコトヲ、豫想スルヤウナ場合デモ、上奏權ニ付テハ色々打合セラシナケレバナラヌヤウナコトガ澤山起キテ來ルト思ヒマス、隨テ勅命ガ下ッテ始メテ憲法ヲ改正シヤウカドウカト云フコトデ上奏權ガ生ジテ來ルノデハナイノデアリマス、ソレニ付テ御意見ガドウデアッタカト思ヒマスカラ、其點ヲ伺ヒタイ

○山岡政府委員 言葉ガ足ラナカッタノデアリマセウ、勅命ニ依テ議案ガ議會ニ出マシタ以上ハ、審議スル權限ガアルノデ、無條件デ審議權ガアルノデハアリマセヌ、普通ノ法律案ナラバ無條件デ審議權ガアリマスケレドモ、無條件ノ審議權ハ無いノデアリマス、兎モ角モ憲法ヲ修正スルト云フコトニ付テハ審議權ガアルカラ、其結果憲法ヲ改正スルト云フコトノ上奏ハ出來ル、故ニ勅命ニ依テ議場ニ出ルト云フコトニハ關係ハ無いノデアリマス、サウ云フ權能ガアリマスカラ、其範圍ニ於ケル事柄ノ上奏ハ出來ルト、斯ウ云フノデアリマス

○杉浦委員 サウ云フヤウニ解釋スルト議院ノ外ニ於テ、此上奏權ヲ行使スベク協議シ、結社ヲ結ブコトハ一向差支ナイヤウニ思ヒマスガ、是マデノ御答辯トハ違フヤウデアリマスカラ、モウ一應伺ヒタイ

○山岡政府委員 其點ハ差支ガアリマス、即チ上奏權ハ議員一個ノ一人々々ノ權能デハナクシテ、此衆議院、貴族院トシテ院議ヲ以テ爲ス權能ニ過ギナイノデゴザイマス、而シテ院議ヲ決スルト云フコトハ議會ガ成立シテノ以後ニ於ケル行動デナケレバナラヌ、議員ト云フ職責ハ議會ガ成立後初メテ行使出來ルモノデアリマシテ、議員ト云フ身分ハ議會閉會中ニ於テモ勿論持ッテ居ルノデアリマス、其身分ト云フモノト、職務行使ト云フモノトハ區別ガアルノデアルト考ヘルノデアリマス、ソレデアリマスルカラ議員ト云フ身分ヲ持ッテ居リマシタ所デ、議會ガ召集サレヌ以前ニ於テハ矢張職權行使ト云フコトハ出來ナイモノデアルト、斯ウ云フ風ニ法律上ノ見解ヲ持ッテ居ルノデアリマス、ソコデ議會ガ開カレテ後ニ於ケル院外ノ行動ハドウデアアルカト云フ場合ニ付テ申上ゲルノデアリマスガ、議案ヲ議スルニ直接内部デノ關係デアルナラバ議院以外ニ於テ議シ、若クハ議院内ニ於テ論ジテモ、之ヲ以テ之ヲ不法行為トハ言ハレマセヌ、サリナガラソレ等ト岐レタル所ノ行動ハ、ソレハ一切適法行為トナラナイト云フコトヲ申上ゲタ次第デアリマス

○杉浦委員 私ハ上奏權ガ有效ニ働クヤウナ場合ヲ想像致シマスレバ、決シテ現在ノ狀況ヲ以テ著シク變革シナイヤウナ場合ニ於テ上奏權ガ有効ニ働ク

ノデハナクシテ、此上奏權ガ活動スル場合ニハ色々其諒解ガ行ハル、ト云フヤウナ場合ニ於テ、有效ニ働キ得ルト信ジテ居リマスルガ故ニ、矢張上奏權ハ如何ナル事柄、如何ナル内容ニ對シテモ有り得ルモノデアルト云フ說ヲ採ルノデアリマスルガ、此事ニ付テハ意見ノ相違ニナリマスカラ廢メマス、唯、ソレニ關聯シテ他ノ方面カラ一點ヲ伺ッテ見タイノデアリマス、ソレハ百歩ヲ讓リマシテ、山岡政府委員ノヤウナ解釋ニ致シマシテ、憲法改正ト云フヤウナコトハ本來ハ餘リ宜クナイ事デアリマス、併ナガラソレヲ議院ノ内ニ持込

ンダ時ニハ正當行為ニナル、此場合ダケハ刑法ノ總則ノ適用ヲ受ケテ正當行為ニナル、斯ウ云フ風ニ解釋ヲ執ルモノト致シマシテ、而シテ此場合山岡政府委員ハ醫者ノ業務行為ノ場合ヲ例ニ取リマシテ、人ヲ傷ケルト云フ事ハ違法行為デアアル、併ナガラ醫者ガ治療ヲスルト云フヤウナ場合ニハ、業務行為トシテ此事ヲ爲シテ一向差支ナイ、其事ハ刑法第三十五條ガ認メテ居ル事デアアル、斯ウ云フ風ニ答ヘラレタノデアリマス、其說ヲ更ニ進メテ參リマスレバ、醫者ニ非ザル者ガ醫者ニ依頼シテ、サウシテ或ル人ノ治療ヲセシムルト云フ行為ハ何故惡イカト云フコトニナルノデアリマス、此事ヲ移シテ來マスレバ、議員ナラザル人ガ議院内ニ於ケル上奏權ヲ行使スル場合ガ何故惡イカト云フ

コトニ結びツケテノ論理が通ジナイヤ
ウデアリマスカラ、一ツ御答辯ヲ願ヒ
マス

○山岡政府委員 詰リ議員ハ如何ナル
場所ニ於テモ、如何ナル時ニ於テモ、職
權ヲ行使スルコトガ出來ルト云フコト
ナラバ、醫者ト同一議論ニナリマス、醫
者ハ如何ナル場所ニ於テモ、如何ナル
時ニ於テモ、其許サレタル範圍ニ於ケ
ル業務行爲ヲ爲シタ場合ニ於テハ無罪
デアリマス、ソレデアリマスカラシテ、
其意味ニ於テ此方ハ廣ク無罪ノ範圍ガ
アルノデアリマス、唯、問題トナリマス
ルノハ、此議員ノ職權行爲ガ議會開會
中ニ限ル、斯ウ云フ風ニ考ヘル次第デ、
ソコデ結論ノ差異ヲ生ズル譯デアリマ
ス

○杉浦委員 サウシマスト議員ノ議院
内ニ於ケル行爲ノ免責ノ點ヲ憲法ノ五
十二條カラ論ゼラレテ居ルノデアリマ
スルガ、サウヂヤナイヤウニ今迄伺ッテ
居ッタノデアリマス、五十二條ニ依ッテ
免責セラル、ト云フ風ニ伺ヒマシレバ
今ノヤウニナリマスガ、サウヂナイ限
リハ今ノヤウナ御答辯ハドウモ論理貫
カヌノデアリマス

○山岡政府委員 五十二條ノ意味カラ
申上ゲルノデアリマセヌ、五十二條
ハ此前モ申上ゲタ事デアリマスルガ、
議員ガ議院内ニ於テハ如何ナル行動ヲ
執ッテモ院外ニ於テハ責任ガアリマセ
ヌ、斯ウ云フコトデアリマシテ、是ハ各

議員ノ行動ヲ申シテ居ルノデアリマス、
此事ハ矢張移シテ以テ一ツノ解釋ノ補
助トナルト、斯ウ云フヤウニ考ヘルノ
デアリマス、即チ院內ニ於テハドウ云
フ行動ヲ執ッテモ適法行爲デアルト云
フコトヲ言ハヌ爲ニ、實ハ憲法ノ文字
カラ見マスカラバ、斯ウ云フ事ハ昔イ
テ無クテモ宜イト思ヒマスカ、少クト
モ議員ノ言論ノ大切ナルコトニ鑑ミテ、
茲ニ憲法ハ斯ノ如キ規定ヲ置イテ居ル
コトト思フノデアリマス、例ヘバ司法
官ノ行動ニ對シテ見タ所デ風俗ヲ害ス
ル事項、其他ノ事ヲ裁判スル場合ニ於
テ、之ヲ公ケニシタナラバ矢張風俗ヲ
害スル事項デアリマス、併ナガラ是ハ
職權問題デアリマスルカラシテ、是ハ
犯罪ニナラヌノデアリマス、サウ云フ
次第デアリマスルカラシテ、此五十二
條ノ法文ト云フモノハ無クテモ斯ノ如
ク解釋ガ出來ルト思ヒマシケレドモ、
免ニ角憲法ハ明ニ之ヲ規定シテ責任ガ
無イト云フコトヲ示シテ居ルノデアリ
マス、是故ニ憲法ノ精神トスル所ハ斯
様デアアル、之ヲ解釋ノ補助ト致ス次第
デアリマシテ、上奏權ヲ議員ガ行使ス
ル、即チ衆議院若クハ貴族院ト云フモ
ノガ行使スル場合ニ於テ、其職權行爲
ト云フモノハ一人々々ノ者ガ有スルニ
非ズシテ、此議院トシテ有スルモノデ
アリマスルカラシテ、上奏權ト云フ範
圍ニ入ッテ來ナイ限リハ適法行爲ニナ
ラナイト考ヘルノデアリマス

○杉浦委員 全ク違ッタ問題デアリマ
スルガ、以前星島君ガ政府ニ向ッテ無政
府主義トハ何ゾ、共產主義トハ何ゾト
云フヤウナ質問ヲ致サレマシタガ、無
政府主義ナドニナリマスト政府ガ答辯
ニ困ラレタノモ當リ前デアルト思フ、
今日無政府主義ヲ唱ヘテ居ル所ノ人々
ノ言フコトハ一寸トモ一致シテ居ナイ
ノデアリマス、デアリマスルカラ 無政
府主義トハ何ゾヤト云フ質問ニ對シテ
直ニソレニ共通ノ定義ヲ下スト云フコ
トハ困難デアリマスルカラ、政府ガ答
辯ニ困ラレタト云フコトハ認メマス、
併ナガラ共產主義ノ方ニナリマスレバ
一定ノ定義ヲ下シ得ルノデアリマス、
併シ私ハ今御尋ヲ致シタイ所ハ無政府
主義トハ何ゾヤ、共產主義トハ何ゾヤ
ト云フ點ニ付テノ質問デハナイノデア
リマス、唯、無政府主義及共產主義者ガ
如何ナル方法ニ依ッテ其目的トシテ居
ル所ノ主義ノ實現ヲシヨウトシテ居ル
カ、詰リ今問題ニナッテ居ル所ノ法案ヲ
議論スルニ付キマシテ無政府主義者、
共產主義者ノ考ヘテ居ル方法其モノガ
問題ニナッテ來ルト思フノデアリマス、
政府ニ如何ナル方法ニ依ッテ無政府主
義者及共產主義者ハ其主義ヲ實行シテ
居ルカト云フコトヲ伺ヒタイ

○川崎政府委員 御質問ノ趣旨ガ能ク
分リマセヌデシタガ、今大體承リマシ
タ所デハ先般司法大臣カラ事例ヲ御説
明ニナリマシタト云フノハ、共產主義
デアルトカ、無政府主義等ヲ奉ジテ居
ルヤウナ者ガア、云フ方法ヲ以ッテヤッ
テ居ルノデアリマス、其外二條或ハ三
條、四條ニ當ルヤウナ事例、矢張サウ云
フ主義ヲ奉ジテ居ルヤウナ事例モアル
ノデアリマス、御質問ニ副フカドウカ
知りマセヌガ、左様ニ考ヘテ居リマス
○杉浦委員 尙ホ一言ダケ伺ヒマス、
無政府主義者ガ其實行方法ト考ヘテ居
リマス中ニハ、現行法ヲ急激ニ廢シテ
シマツテ、無政府主義ノ狀態ニ導カウト
云フ過激的ノ思想ヲ持ッテ居ル者モア
リマシケレドモ、サウ云フ急激ナル方
法ニ依ッテ現在ノ法制ヲ打壞シテ、其目
的トシテ居ル主義ヲ實行シヤウトスル
ノデナイ連中モ多クアル、寧ろ是ハ過
激派ノ中デハ穩健ノ部ニ屬スル者デア
ルカモ知レマセヌ、其穩健ノ部ニ屬ス
ル者ノ中ニハ、或ハ「トルストイ」ノ如
キ、或ハ「ガンヂー」ノ如キ無抵抗主義
ヲ唱ヘ、サウシテ一切ノ其國ノ現行法
ニハ拘束セラレナイ、サウシテ此方法
ヲ實現シヤウト云フ意見ヲ持ッテ居ル
連中モ此法ニ依ッテ御取締ニナル積リデ
アリマスカ、別段ニ積極的ノ方法ニ依
ラナイデ、其國ノ法律ニ支配サレナイ
ト云フ、無抵抗主義ノ態度ヲ採ッテ居ル
者ハドウデスカ

○山岡政府委員 無抵抗主義デ本法ニ
於キマスル目的ノ爲ニ結社ヲ作り、其
目的ノ實行ノ爲ニ協議ヲシ、實行ノ爲
ニ煽動スルコトガナケレバ、ソレハ研

究デアルトカ、宣傳デアルトカ云フコトニナツテシマフノデアリマス、デアリマスカラ學理ヲ研究スルト云フ點カラ出發シテ之ヲ公衆ノ間ニ傳播スルト云フヤリ方ニ於テスル者ハ、第一條ニ規定シタコトニハ牴觸致サヌノデアリマス、サウ云フ事柄ハ他ノ治安警察法、出版法、新聞紙法等ニ依テ取締ルベキモノデアリマシテ、本案ニ於ケル目的ハ總テ積極的ニ結社ヲシ、協議ヲシ、煽動シ、而モ其事ニ依テ第一號ノ趣旨ノ事ヲ實現スベキ狀況ニ置カレナケレバナラヌノデアリマス

○前田委員長 ソレデハ只今カラ休憩シマシテ、午後ハ一時半カラ再開致シマス

午後零時四分休憩

午後二時九分開議

○前田委員長 午前ニ引續テ開會致シマス板野友造君

○板野委員 提案ノ御趣旨モ分リマシタシ、案ノ素性モ素質モ分リマシタカラ、質問トシテノ發言ノ通告ハ取消シマス

○前田委員長 皆様ニ此際申上ゲマス、成ルベク本日本日中ニ質問ヲ終了致シタイト思ヒマスカラ、ドウカ成ルベク重複ヲ避ケテ、要領ダケ御質問ヲ願ヒタイ

○清瀬委員 今朝書類ヲ政府委員ニ御示シ申シテ、ソレガ本法ト如何ナル關係ガアルカト云フコトヲ御研究願フテ

置イタノデアリマス、ソレデ委員會ノ形式トシテハ私ノ提示シマシタ書類ノ内容ヲ此所ニ現ハシテ置カヌト、形式上御答辯ニナラヌヤウニ思ヒマスカラ、總テハ速記ニ載セテ戴キマスガ、要領ダケヲ申シマス

○前田委員長 宜シウゴザイマス

○清瀬委員 今政府ノ御答辯ヲ求メマヌル事ハ、主トシテ外國ニ於ケル労働黨ノ政綱政策、又政綱政策案トシテ學者ノ編成シタ物ニ係ルモノデアリマス、第一「イリー」ノ社會改造項目ハ四ツノ政綱カラ成ッテ居リマシテ、一ツハ天然人爲ノ獨占、ソレカラ鐵道、水道、電信、電話ノ如キ物、是ナドノ社會化ト云フ事ガ一ツ、ソレカラ第二ガ土地制度ノ改造デアリマス、三ガ私有財産ノ社會的方面ノ發展、即チ個人的方面ノ抑制、ソレカラ四ガ私有産業ノ道德的基調ノ向上、サウ云フ四大項目ニ註釋ヲ付ケテ書イテアリマス、「モンゴメリー」ノ改革案ハ簡單デアリマスカラ皆讀ミマス、一、労働團結權ノ確保ト團體協約ノ公認、二、調停仲裁ノ新制度、三、最低賃銀ノ決定、四、労働時間ノ規制、五、失業問題ノ對策、六、聯合産業代議組織、是ガ政界ニ關スル事、七、産業ノ國有化、三番目ハ「ラックス」及「ワッツ」產業法典、是モ項目ダケ掲ゲマス、一ハ團結權、二ハ集合協約、三ハ生活賃銀、四ハ八時間労働、五ハ婦人労働對等權、六ハ産業統制、四番目ノ英國労働黨ノ宣

言ハ有名ナモノデ私ガ説明シナイデモ委員諸君ハ御承知デアリマガス、要領ダケヲ申シマス、一ガ國民最低限ノ一般の實施、二ガ産業ノ民主的統制就中土地主要産業ノ國有化、三ガ國家財政ノ革命、就中資本課税ノ設定、是モ御答辯ヲ要スル重要ナ事項ト思ヒマス、四ガ剩餘財ノ公共福利的使用、斯ウ云フ四ツノ綱領ヲ掲ゲデアリマシテ、今ノ労働及新社會秩序ト云フ大キナ物ニナツテ居ルコトハ諸君御存ジノ通りデアリマス、五番目ハ獨逸ノ新シク出來マシタ合同民主黨ノ政綱デアリマス、是モ世間ニ周知ノ事デアリマスガ、科學的社會主義ノ原則ノ下ニ次ノ六項目ヲ掲ゲデアアル、一ハ共和制ノ擁護ト云ッテ居リマスガ、ソレハ向フハ共和國デアリマスガ、日本ハ君主政治ノ國デアリマスカラ、是ハ問題外トシテ宜イ、二ハ司法制度ノ民主的改造、三ガ財政租稅ノ改革、國民生活必需品供給ノ確保、主要産業殊ニ鑛山ノ社會化、四ガ社會政策ノ確立、就中社會立法ノ完成ニヨル労働力ノ保護及經濟議會制度ノ設立、五ガ國民保健及教育ノ社會化、六ガ國際政策ノ樹立、之ヲ向フ方デハ關爭目標ト云ッテ居リマスガ、日本ノ政綱ノ事デアリマス、ソレカラ終ニ此著者ノ綜合致シマシタ社會政策新綱領ト云フモノハ一項カラ十項マデニ互ッテ居リマスガ、今言ッテ各國ノ労働黨ノ言ッテ事ヲ綜合シテ書イテ居ルノデ、十項皆ハ申シマセ

ヌガ、第一ハ産業ノ社會化、第二ハ産業ノ民主化、産業上ニ於ケル責任管理ノ制度、團結權最低賃金ノ規制ト云フ風ナコトヲ以テ充チテ居ルモノデアリマス、是ガ治安維持法、殊ニ第一條ノ政體ノ變革又ハ私有財産ノ否認ト云フモノニ牴觸スルヤ否ヤ、註釋ヲシロト仰シヤレバ私ハ意味ヲ知ッテ居リマスケレドモ、註釋ヲセズニ此文章ノ儘デ御答ヲ願ヒタイ、政黨ノ政綱ハサウ云フ風ノモノデアリマスカラ、是ダケデ以テ日本デ政黨ヲ造ル者ガアッタナラバ罰セラレカドウカト云フコトガ焦眉ノ急ト思ヒマスカラ……

〔清瀬委員質問參照〕

「イリー」ノ社會政策綱目

(一) 天然人爲ノ獨占(事業ノ性質カラ生ズル獨占例ヘバ鐵道、水道、灌水、電信、電話等、原料ノ制限カラ生ズル獨占例ヘバ石炭石油等、人爲的獨占例ヘバ世襲財產事業上ノ特權、財政的獨占即チ專賣等)ノ社會化(「イリー」ハ國有又ハ公有ノ意味ニ用ヒタ)
(二) 土地制度ノ改革(例ヘバ不用地ノ課税、土地改良ノタメノ免税、不勞增價額ニ對スル公衆ノ分前、國有公有地ノ貸賃借、労働者ヘ土地分與、土地讓渡ノ單純化)
(三) 私有財産ノ社會的方面ノ發展(個人的方面ノ抑制)
(四) 私有産業ノ道德的基調標準ノ向上(ソノタメノ社會的立法的活動例ヘバ市場監督、食料品不正取締、労働

者保護、爭議調停等)ノ四大綱ヲ主張シタ、其他ノ改革案トシテ教育、住宅衛生ノ改良、勞働權ノ確保、財政金融ノ改革、公有財産ノ擴張、人權ノ保護、發達、富豪ノ公共事業、勞働者團結、利益分配制、産業組合、セトルメント、節酒運動、貯蓄保險ノ獎勵等ヲ掲ゲ、更ニ政治的改革トシテ人民一般投票制、立法府比例代表制、選舉ノ公正、自治制ノ改革、地方分權ノ發達ヲ唱ヘタ

二 「モンゴメリー」ノ改革案

(一)勞働團結權ノ確保ト團體協約ノ公認(二)調停仲裁ノ新制度(三)最低賃銀ノ決定(四)勞働時間ノ規制(五)失業問題ノ對策(六)聯合産業代議組織(七)産業國有化ノ問題

三 「ラック」及「ワッツ」産業法典

(一)團結權(二)集合協約(三)生活賃銀(四)八時間勞働(五)婦人勞働對等權(六)産業統制

四 英國勞働宣言

(一)國民最低限ノ一般の實施(二)産業ノ民主的統制(就中土地主要産業ノ國有化)(三)國家財政ノ革命(就中資本課税ノ設定)(四)剩餘財ノ公共福利の使用ト云フ四本柱ヲ立テ其根柢ニ社會ノ民主的統制ト云フ土臺ヲ据エタ、右勞働黨宣言(一九一八年)ノ掲グル旗印ハ社會主義ソノモノデアリナガラ、自ラ一切ノ階級的手段又ハ

階級的提案ヲ斥ケテ「民主的協力」ヲ最終ノ目標トシ「若シ法律ガ自由ノ母デアラナラ勞働黨ニトツテハ科學ガ法律ノ父デナケレバナラヌ」ト結論シタ

五 獨逸合同民主黨政綱

「科學的社會主義」ノ原則ノ下ニ(一)共和制ノ擁護(此項ハ我國ニテハ別論ナリ)(二)司法制度ノ民主的改造(三)財政租稅ノ改革、國民生活必需品供給ノ確保、主要産業殊ニ鑛山ノ社會化(Sofialisierung)(四)社會政策ノ確立、就中社會立法ノ完成ニヨル勞働力ノ保護及ビ經濟議會制度ノ設立(五)國民保健及ビ教育ノ社會化(Vergesellschaftung)(六)國際政策ノ樹立ト云フ六ノ「闘爭目標」ヲ前面ニ振翳シタ

六 社會政策新綱領

第一、産業ノ社會化(國有又ハ公有ノ意ニアラズ)即チ鐵道、鑛山、電力其他主要産業ノ社會化、就中國家社會ノ産業統制ニ關スル參加、殊ニ利得分收及ビ價格統制
第二、産業ノ民主化(勞働者管理又ハ共同管理ノ意ニアラズ)即チ産業關係當事者(管理者、資本者ハ勞働者及ビ國家社會公衆)ノ全員又ハ數員ノ聯合組織ニ成ル産業代議體ノ組織、就中勞働者ノ産業統制ニ關スル參加協力
第三、産業上ニ於ケル責任管理ノ制

度、殊ニ勞働者ニ對スル職業保障ノ責任(失業責任)ノ確立、並ニ勞働者ノ爲ノ失業豫備基金及ビ福利積立基金ノ設定

第四、勞働爭議ニ對スル産業自主的裁判又ハ調停制度ノ樹立並ニ同盟罷業、企業閉鎖其他闘爭手段ノ規制

第五、産業利得衡平ナル分配、殊ニ利潤配當ノ制限並ニ利益分配制度ノ確立

第六、勞働團結權及ビ團體的勞働協約ノ公認確保、並ニ勞資代議組織ニヨル協定ノ發達

第七、生活賃銀ノ規準、就中勞働組合ノ不完全ナル産業ニ於ケル最低賃銀ノ決定

第八、勞働時間ノ規準、就中最高勞働能率ヲ基調トスル最短標準時間ノ決定

第九、勞働法典ノ編纂、殊ニ勞働者ノ基本的權利確保ニ關スル立法ノ完成

第十、勞働者教育又ハ成年教育ノ普及及發達並ニ教育ト産業トノ聯絡

右ノ外我國ノ今日ニ於テ(一)生活必需品ニ關スル問題、就中物價、市場、金融ノ調節、暴利ノ取締、消費組合ノ普及及發達及ビ新立法ノ制定(二)土地殊ニ農地制度ノ改革、農村經濟ノ振興、小作制度ノ改善及ビ新立法(三)住宅問題殊ニ勞働者住宅ノ改善、住宅金融及ビ家賃制限(四)社會教育都鄙文化的施設ノ促進改善等社會政策ノ

解決ヲ俟ツ重大ナル案件ガ横タハツテ居ルバカリデナク(一)年齡ノ制限ヲ原則トスル普通選舉(二)義務教育ノ延長完備(三)租稅負擔ノ累進法ニヨル均衡不勞富者(富メル怠者)ノ制裁(四)食糧問題ノ解決ニヨル生活ノ安定ヲ見ルノデナケレバ社會政策ノ基礎根柢ハ確立シ得ナイ

○山岡政府委員 御答致シマス、此米國ノ「イリー」ノ社會改良綱目、此中ニ社會化ト云フコトガゴザイマス、即チ天然又ハ人爲ノ獨占ノ社會化、獨占シテ居ルコトヲ社會化スト云フ、此事ガ「イリー」ノデハ問題ニナツテ來マス、後トハ問題ニナリマセヌ、其處ニ「イリー」ハ國有又ハ公有ノ意味ニ之ヲ用ヒテ居リマス、國有問題ニ付テハ段々説明ガ致サレテ居ルノデアリマシテ、國有ニスルコト必ズシモ非ナラズ、唯所有權ヲ沒收スルト云フ意味ナライカナイ、又ハ公有トアリマスルケレドモ、是モ結局歸スル所ハ同等デアリマシテ、沒收ノ意味ヲ用ヒルナラバイカナイノデアリマス、然ラザレバ差支ナイ譯デアリマス、次ニ此「モンゴメリー」等ノ言ツテ居ルコトデアリマス、産業ノ國有化ノ問題——其他ノ點ニ付テハ少シモ本法ニ關係ガ無イカラ申上ゲマセヌガ——産業ヲ國有化スル、之モ矢張「イリー」ニ付テ申上ゲタト同様デアリマスカラ、左様ニ御承知ヲ願ヒマス、ソレカラ此三デアリマス、「ラック」「ワッツ」等ノ問

題デアリマスガ、是ハ本法ニ關係ハアリマセヌ、ソレカラ次ニ四デアリマス、此勞働黨ノ宣言ニ於テ産業ノ民主的統制、就中土地主要産業ノ國有化、此事ガ矢張沒收の意味ヲ持タヌトスレバ本法ニ關係ハ無イノデアリマス、ソレカラ次ハ五デアリマス、此中ニモ「主要産業殊ニ鑛山ノ社會化」此點デアリマス、此社會化ト云フコトハモウ此頃ハ始終使ハレルコトデアリマス、「デモクラシー」ノ基本デアリマス、斯ウ云フ事ハ數年前——十年前ニ於テハ「デモクラシー」ト云ツテモ既ニ危險ナリト考ヘテ居ッタノデアリマスガ、今日ハ誰モ「デモクラシー」ハ危險ダト考ヘマセヌ、社會化ト云フ言葉ハ一向危險ダトハ考ヘナイ、斯ノ如ク抽象的ニ廣ク社會化ト言ッタ所デ、是ガ直ニ問題ヲ起ス意味ニハナラヌノデアリマス、唯、併ナガラ是ガ立憲政體ヲ尊重セズ、又私有財産制度ノ根柢ヲ尊重セズ行クト云フナラバ、矢張本法ニ牴觸スルコトニナリマスケレドモ、此書物ニ依リマスト立憲政治——立憲ヲ尊重シ云々ト云フコトニ書イテゴザイマス、斯ウ云フ思想デアリマスルト今日制度ノ根柢ヲ顛覆スルト云フコトニハ見エマセヌノデアリマス、隨テ以上ノ關係ヲ要約シタル所ノ著者ノ見解デアリマスガ、是ニハ洵ニ一層穩カナル見解ニナツテ居ルヤウデアリマス、ソレデ國家社會ガ其産業ニ參加シテ産業統制ヲスルノガ宜イ、斯ウスレバ自

然ニ社會化セラレテ行クノダ、斯ウ云ツタコトモ附加ヘラレテ居リマス譯デス、各個ニ分ケテ申シマスルト斯様ナ次第デアリマスガ、之ヲ要約シテ約メテ申上ゲナケレバナラヌノデアリマス、民主的ト云フ言葉ガ往々ニシテ使ハレテ居リマス、政治ノ民主的ト云フコトハ我國ニ於テハ牴觸スル言葉デアリマス、ソレデ憲法學者ニ於キマシテモ民主主義ト云フコトニ之ヲ使ヒマシテ、決シテ民主主義ト言ハヌノデアリマス、民主的の見解ヲ以テ憲法論ヲスルト、是ハ我國ノ憲法ニ牴觸スル思想デアリマス、仍テ此中ニ澤山使ハレテ居リマスケレドモ、産業ノ民主化ト云ツテ單純ニ言フナラバ、ソレハ産業ヲ廣ク社會化スルト云フコトト大差ハナイ、政治上ニ於テ民主化、民主的ト云フトソレハ確ニ牴觸スル言葉デアリマス、サウ云フ意味ニ於テ其點ハ此言葉ノ意義ニ依ッテ定メテ行カナケレバナラヌノデアリマスカラ、ソレダケ附加ヘテ置キマス、尙ホ今一ツ參考ノ爲ニ御示シニナツタ英國ノ議會ニ於テノ決議案ノ關係デアリマス、此英國ノ決議案ノ關係デアリマスルガ、昨日モ問題ニ致シタ漸次ニ資本主義ヲ改革シテ行ク、斯ウ云フ事ガ大項目デアリマス——大眼目デアリマス、ソコデ此全體ヲ通覽シテ見マサルト、吾々ハ社會主義ノ行キ方ヲ以テ漸次ニ進ムノデアアル、決シテ革命ヲシ、若クハ財産ヲ沒收スルノデハナイ、斯

ウ云フ事ガ説明セラレテ居ル、ソレデアリマスルカラシテ段々第一條ヲ述ベマシタルヤウニ、私有財産ノ根柢ヲ破壊シナケレバ宜シイ、斯ウ云フ趣旨デアリマス、ソレデアリマスルカラ此處ニ漸次ニ使用シ云々ト云フコトハ矢張意義ノ有ルコトデアッタト思フノデアリマス、此故ニ今日只今此綱領ダケヲ以テソレデ右カ左カ説明ヲ求メルト云フ、斯ウ云フ御説デアリマスカラ、一應御説明致シタノデアリマスケレドモ、其言葉自體ガ——昨日モ申上ゲタヤウニ言葉自體カラ直ニ判定ヲシテ見タ所デ、基ク所ノ理論ガ何レデアアルカト云フコトヲ究メナイト、決シテソレハ分ルモノデハナイノデアリマス、ソレデアリマスカラ今日一應ノ御答ハ綱領ニ付テ致シマシタケレドモ、綱領ト云フモノニ依ッテ決シテ全豹ヲ窺フコトガ出來ヌノデアリマスカラ、ソレダケノコトヲ附加ヘテ申上ゲマス、私ハ之ヲ見テ眞ニ其見解ハ何レニアルカト云フコトヲ諒解シタノデアリマス、サウ云フ次第デアリマスカラ綱領ニ付テハ御答ヲ致シマシタケレドモ、此綱領ノ本當ノ意味ガ何レニアルヤト云フコトハ、モツト説明ヲ俟タナケレバ分ラヌコトデアリマスガ、併シ綱領ニ付テ述ベマシタコトハ、私ハ決シテソレヲ二三ニ致シマセヌ、其通りデアリマス

○清瀬委員 私ハ斯ノ如ク議會ノ立法デヤラウト云フノデ致スナラバ、是等ノ如キハモウ明瞭デナケレバ、立憲制ハ連モ立テ行カナイト思ッテ居ル、現ニ外國ノ立憲國ノ或政黨ノ綱領ガ日本ノ議會デ演説ヲ讀ンデ見ナケレバ分ラヌト云フヤウナコトデハナラヌト思フ、日本ガ立憲政治ヲ採ッテ居ル以上ハ議會ハ否認シナイ、代議士ヲ出シテ議會デ法律ヲ作ッテヤラウト云フノデアアルカラ、議會ヲ通過シナイト云フナラバ立憲政治ハ破壞サレルト思ヒマス、只今ノ御答辯デハ甚ダ不滿デアリマサルガ、是デ止メマシテ、次ニ二三ノ點ヲ伺ヒマスガ、私有財産ノ事ハ前ニ小川司法大臣カラ色々ト説明ガアリマシタガ、代價ヲ拂ヘバ宜イト云フコトデアリマシタガ、代價ハ手段デアリマス、結果ハ個人ノ土地所有權ガ無クナルト云フ事ニナル、此點甚ダ徹底シナイノデアリマスルガ、是ハ此程度デ止メマシテ、此處ニ産業ノ代議組織ト云フモノガアリマスルガ、是ハ如何デアリマセウカ、生産議會ヲ作ルト云フ組織デアリマス、是ハ「モンゴメリー」ノ改革案デアリス

○山岡政府委員 産業ノ代議組織ト云フモノハ必ズシモ惡イコトデヤナカラウト思ヒマス、詰リ其代議組織ニ行クマデノ間ニ各人ノ意思ニ依ッテ、其私有權ノ根本ヲ否認シ、産業ヲ代議組織ニシテ行クト云フ事ハ少シモ差支ナイノデアッテ、ソレニハ少シモ關係ガ無イノデアリマス、詰リ私有權ノ根本ヲ破壊

シテ、不法ノカラ以テ之ヲ改革スルト云フ事ガイカヌト云フダケデアアル

○清瀨委員 産業代議組織ト云フモノハ是ハ「ギルト」シアリズム」カラ來テ居ルノデアッテ、生産者ノ議會ト——労働者ノ議會ト、消費者ノ議會ト、二ツノ議會ニシテ國政ヲ行フト云フコトデアリマス

○山岡政府委員 ソレ故ニ只今申上ゲタヤウニ此代議政體ノ基礎ヲ破壊スルト云フコトニナレバ、勿論此第一條ニ觸レルノデアアル、其處ニ關係ナキ他ノ合議體ヲ作ッテ見タ所デ、此處ニ影響ガナケレバ差支ナイ

○清瀨委員 其影響ガ有ルカ無イカラ質問シテ居ルノデアリマス、其點如何デアリマスカ

○山岡政府委員 産業ノ代議ト云フ事デアレバ、茲ニ帝國議會ヲ存在セシメテ居ル意味デアルトシテナラバ勿論出來ルト思フ

○清瀨委員 産業ノ代議組織ハ帝國議會ヲ拵ヘテ、兩院協議會ト云フヤウナモノデヤッテ行カウト云フノデアリマヌ

○山岡政府委員 結局同ジ答辯ニナルノデアリマス、帝國議會ノ權能ヲ縮小スルト云フコトハ憲法ガ改正セラレテ行クナラバ差支ナイ、本法ニ於テハ帝國議會ノ權能ヲ縮小スルト云フコトハ少シモ關係ガナイノデ、帝國議會ヲ廢滅ニ歸スルト云フダケノコトデアリマ

ス

○清瀨委員 帝國議會ノ權能ヲ縮小スルト云フコトハ大變ナ問題デ、ソレコ

ソ日本ノ國權ヲ紊亂スルヤウニ考ヘマスノデ、只今ノヤウナ説明デハナラヌト思ヒマスガ、問題ヲ變ヘマシテ、人民一般投票——「レフエレンダム」デ政治上ノ問題ヲ決スルト云フコトハ如何デアリマスカ

○山岡政府委員 前ニ内務大臣カラ説明サレマシタカラ、ソレニ依ッテ御承知置キヲ願ヒマス

○清瀨委員 モウ一度伺ヒマス

○山岡政府委員 ソレハ矢張我ガ憲法ニ於ケル代議政體ヲ根幹トシテノ意味ナラバ宜シイガ、存在セシメズシテサウ云フ制度ヲ變ヘルト云フナラバ宜シクナイト思フ

○清瀨委員 假定論デハイカヌト思フ、實際問題トシテ人民投票ト云フヤウナ事ヲ政綱ニ掲ゲタラ如何ナサルカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、此事

ハ瑞西デモヤッテ居ルシ、獨逸ノ新憲法ニモ在ルノデアリマス、宣戰、媾和、或ハ其他ノ重大ナル問題ハ代議機關ニ依ラズシテ、直接人民ニ其可否ノ如何ヲ問フト云フヤウナコトデアリマス、英國ノ如キハ解散ヲ以テ「レフエレンダム」トシテ居ッタガ、是ハサウデナク、直接人民ニ問ウテ其可否ヲ決スルト云フ

ノデアリマス、是ハアナタ方ノ仰シヤル政體ト云フモノニ關係ハナイカ、私

有財産ト云フ事ヲ質問致シタイノデアリマスガ、假定論デ以テ憲法ニ抵觸ス

レバ惡イト云フノデアリマスガ、抵觸スルカシナイカト云フコトノ御見解ヲ承リタイ

○山岡政府委員 結局一ツノ例ヲ立テテノ議論デアリマシテ、例ハ即チ假定デアリマス、ソレニ對シテ御答致スヨリ外ハナイト考ヘテ段々申上グルノデアリマシテ、結局此代議政體ヲ根本カラ改メルト云フコトデアレバ本法ニ觸レルノデアリマスルガ、ソレ以上ニ或ル制度ヲ設ケルト云フコトガ此議會ヲ通ジテスル所ノコトデアラナラバ、毫モ

本法ニ抵觸シナイ、議會ヲ通ラズニ行クト云フナラバ別問題デアリマスルガ、サウ云フ問題ヲ提供ニナルトハ考ヘナイ、即チ議會ヲ通シテ此以外ノ必要ナル制度ヲ設ケヨウト云フノデアルトスレバ、是ハ憲法ヲ改正シヨウト云フコトデアアル、憲法ヲ改正シヨウト云フコトニ付キマシテモ是ハ段々申上ゲタノデアリマスルガ、即チ憲法ヲ改正スルト云フコトハ議會ノ權能ニ依ッテスル

ノデ、議會ハ之ニ對シテ上奏ヲ爲シ、勅命ヲ以テ議案ガ議會ニ出マシテ、其後ニ議會ハ其審議權ヲ行使シテ、代議政體ノ根幹ヲ失ハズシテ他ノ機關ヲ設ケルトスレバ、本法ニ抵觸シナイノデアリマス、サウ云フコトカラ致シマシテ今「レフエレンダム」ト云フモノハ其手段ニ依ッテ、或ル法律關係ヲ認メテ

來ルナラバ——ソレハ事實ノ問題デアリマス

○清瀨委員 議會ヲ通シテスルト云フコトナラバ宜イ、私モサウ思フ、ソレデ是ガ議會ヲ通シテノ政黨ノ政策トシテドウダト云フ問題デアリマスルガ「レフエレンダム」ヲ議會ヲ通サズニ施行スルト云フヤウナコトハ誰モ考ヘテ居ラヌ、議會ノ立法ニ依ッテ私有財産ヲ否認シ、政體ヲ或ル程度ニ於テ變更シテ行ク、即チ一般投票ヲ議會ノ立法政策ヲ認メテ行カウト云フナラバ宜イト云フノデ、私有財産制ノコトモ議會ヲ通シテヤレバ宜イト云フコトニナル、

我國ノ立憲政治モ、議會ノ權能擴張、縮小モ議會ヲ通シテヤレバ宜イト云フコトニナリマスガ、サウスルト吾ト同様ノ意味ニナリマスガ、サウ承ッテモ宜シイ譯デアリマスカ

○山岡政府委員 ソコハ非常ニ大切ナ點デアリマスルカラ申上ゲマスガ、清瀨君ノ御議論ハ如何ナル事デモ議會ヲ通セバ出來ルコトニナルト云フヤウデアリマスガ、第一條ニ於テハ國體ノ變革ト云フコトハ如何ナル事ニ於テモ出來ナイ、政體ヲ變革スルト云フ事ハ如何ナル意味デモ許サヌ、絶對的ノモノデアアル、絶對的ノ關係ヲ働ノ上ニ於テ持ツト云フコトヲ申スノデアリマス、仍テ之ヲバ今日ノ議會ニ於テ法律ヲ以テ其關係ダケハ議會ヲ通シテモ出來ナイト云フコトヲ段々申上ゲテ居ルノデアリ

マス、内務大臣ニ於テモ矢張左様ナ意味ニ於テ議會ヲ通シテモ許サヌト云フノデ、其以外ノ事ハ是ハ全ク議會ノ權能ニアルコトデアリマスカラ、議員ノ權能ヲ行使シテヤル事ハ差支ナカラウト思ヒマス

○清瀬委員 他ノ問題ニ移リタイト思ヒマスガ、一寸一問ダケ、第四ノ英國勞働黨宣言ノ中デ、是ハ非常ナ政治問題ニナリマシタモノデ、資本課説ハ如何デスカ、是ハ御研究ニナリマセヌデシタカ

○山岡政府委員 サウ云フヤウナ事ハ本法ニ關係ナイモノデアルト云フコトヲ御斷リ致シマス

○清瀬委員 モウ一ツダケ、英國勞働黨ノ政綱ノ中ニ剩餘財ノ公共福利の使用ト云フコトガアリマスカ、是モ宜イト考ヘテ宜シウゴザイマスカ

○山岡政府委員 ソレモ矢張説明ガ這入ッテ來ナケレバ分ラヌコトデアリマスカ、直ニ剩餘財ヲバ公共ノモノニ使ッテシマフ、サウ云フコトヲシテ行ク觀念ガ、所有權ニ何等ノ考ヘナシトハドウシテモ言ヘヌノデアリマス、詰リ財產權ノ關係ニ所有權ト云フモノ、働キヲ離シテ、ソレヲ一般民衆ノ爲ニ使ッテシマフコト云フコトハ、矢張イカント思フ、サウ云フ意味デナク、法律關係ニ於テ之ヲ是認サレテ來タ形ニナレバ差支ナイト思ヒマス

○清瀬委員 是デ打切リマス、剩餘財

ノ問題、ソレカラ資本課稅ノ問題、一般投票ノ問題等、要スルニ政府ノ御意見ハ甚ダ徹底ヲシテ居ナイ、斯ウ云フヤウナ法律ヲ發布セラレテ、ドウシテ今カラ新政黨ガ造レマスカ、政府ハ普通選舉ヲ實行サレテモ、來ルベキ新興勢力ノ道ヲ塞グモノト私ハ斷定致シマス

○比佐委員 連日ノ質問應答デアリマスカラ、私ハ簡單ニ質問ヲ致シテ見タイト思ヒマス、第一國體ノ變革ト云フコトハ、是ハ御互ノ常識上大概分ッテ居ル話デアリマスカ、一體國體トカ政體トカ云フコトハ、是ハ政治上ノ言葉デアリマシテ、法律上ノ用語ト致シマシテハ洵ニ空漠タルモノデアリマス、此意味ニ於テ國體政體ト云フヤウナ言葉ヲ、法律上ノ條文ニ入レタト云フコトハ、洵ニ遺憾ニ感ズルノデアリマス、其意味カラ此政體ノ變革ト云フコトニ付テ一寸御伺シテ見タイト思ヒマス、政體ノ變革ト云フノハ政府ノ御考ハ統治權者ノ變更若ハ廢止ト云フコトヲ意味シテ居ルノデアルカ、之ヲ御伺ヒ致シマス

○山岡政府委員 政體ノ變革ハ統治權者ノ事ニハ關係ハゴザイマセヌ、國體ノ變革ハ天皇ト統治トノ關係ヲ申スノデアリマフ

○比佐委員 然ラバ統治權者ノ變更若ハ廢止ヲ意味スルト云フナラバ、統治權者ノ有シテ居ル内容ノ一部ヲ變更スルト云フコトハ、例ヘバ憲法第十一條

ニハ「天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス」第十二條ニハ「天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム」トアル、此一部ノ變更、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ或ル平和論者ガ軍備ハ縮小スベキモノデアアル、軍備ハ必要ノ無イモノデアアルト云フ意見ヲ吐イタトキニハ、統治權ノ一部ノ内容ノ變更ヲ主張スルコトニナリマスカ、此點ニ付テ御説明ヲ願ヒマス

○山岡政府委員 ソレハ國體ノ變革ト云フコトニハナラナイノデアリマス、即チ大權ノ縮小、變更ト云フコトニナルノデアリマス、大權ハ即チ天皇親裁ノ權限デゴザイマス、天皇ガ親裁ニナル國務ト親裁ニナラナイ國務トアルノデアリマシテ、御親裁ノ件ヲ移シテ御親裁ニナラナイ部分ニ換ヘルト云フコトガ憲法ノ變更ニ依ッテ行ハレタ場合ニ於テハ、少シモ差支ナイコトデ、毫モ國體ノ變更ニナラヌノデアリマス、何故ナラバ親裁ヲ爲サラナイ所ノ國務ハ第一條ニ於ケル「天皇之ヲ統治ス」ト云フコトニ對シ間接統治ニナルノデアリマス、第一條ニ少シモ影響ハナイノデアリマス

○比佐委員 サウスルト第十一條第十二條ノ天皇ノ所謂大權ノ一部ヲ、内容ニ於テ、實質ニ於テ、變更スルヤウナ絶對的平和論者ガ軍備ハ全然廢スベキモノダト云フ意見ヲ以テ、團結ヲ結ンダ或團體ノ行動ト云フモノハ、今度ノ條文ニ關ハラヌノデアリマスカ

○山岡政府委員 御說ノ通りデアリマス

○比佐委員 ソレデハ第二ノ政體ノ變革ト云フコトモ、再三承リマス所ニ依リマス、衆議院サヘ存置スレバ宜シイ、ソレ以外貴族院ヲ廢シテモ宜シイ、樞密院モ廢シテモ宜シイ、モ一步進ンデハ憲法五十五條ノ國務大臣ヲ廢シテモ宜シイト云フヤウナ意見モ議會ヲ通ジテノ意見ナラバ、ソレヲ目的トスル或ル共同的ノ動作ヲ執ッテモ此條文ニ係ラヌノデアリマセウカ

○山岡政府委員 ソレハ本法ノ關スル所デゴザイマセヌ、併ナガラ、帝國議會ノ委員會ニ於テ、單純ニ左様ナコトヲ申スト、動モスレバ誤解ヲ招キマスカラ、附加ヘテ致シマス、貴族院、樞密院ヲ廢止スルト云フコトハ、國法ノ禁止スル所デアリマシテ、國務大臣ヲ無クシテシマウト云フコトモ亦今日ノ國法ハ禁止シテ居リマス、即チ朝憲案亂ノ行爲トシテ治安警察法ニ於テハ秘密結社デアリマス、新聞紙法ニ於テハ斯ノ如キ記事ヲ掲載致シマスレバ直ニ處罰スル、一般法ニ於テハ左様デゴザイマス、唯、併ナガラ正當ニ憲法ヲ改革シテ、然ル後ニ行ク範圍ノコトハ別問題デ、今日ノ憲法トシテハ左様ナ行動ハ是認スルト云フ譯デアリマス

○比佐委員 山岡政府委員ノ説明ニ依リマスルト、國體政體ノ不變性ヲ有ス

ル部分ヲ變革スルコトハ是ハイカヌ、第二段ノ問題トシテ此政體ノ不變性ヲ有スル部分ト云フ其範圍ヲ承リタイ

○山岡政府委員 國體ト申シマス、

政體ト同ジク學者ニ依ッテハ無論廣ク

説明サレテ居リマスケレドモ、此所ニ

變革ト云フ字ヲ以テ根本ヲ改メ、即チ

基礎ヲ變更スルコトニナツテ居

リマスカラ、其意味カラシテ國體モ政

體モ極ク狭イ意味ニナツテ來テ居ル、ソ

コデ國體ト云フコトハ之ヲ要約致シマ

スレバ、我國ノ歷史上カラ萬世一系ノ

天皇ガ帝國ヲ統治スル、此事ニ關聯シ

タル關係ダケニ止マルノデアリマス、

其點ハソレ故ニ絕對性ヲ持ッテ居ル、而

シテ政體ノ方モ廣イ意味ガアリマスル

ガ、根幹ヲ變更スルコト云フコトダケノ變

革ト云フ文字ニ付テ左様ニ段々説明ヲ

致シテ居リマス、其點ニ於テ極ク

狭イ範圍デハ代議政體ヲ破壞スルコト云

フダケニ止マリマス、今日ノ此程

度ニ於テハ——我國ノ今日ノ事情ニ於

テハ、此點ハ絕對的ノモノデアアル、斯様

ニ申上ゲタ次第デアリマス、ソレ以外

ノコトハ此本法ノ關係スル所デナイノ

デアリマス

○比佐委員 政府ノ御考ニナツテ居ル

政體ノ不變性ノ基礎根幹ト云フモノ

ハ、代議政治ト云フコト一ツニ止メテ

置クノデスカ

○山岡政府委員 此點モ前申上ゲマシ

タ如クデアリマス、代議政體ト云

フコトハモウ少シ申上ゲテモ宜シイト

思ヒマス、即チ立憲政體ハ法治ノ國デ

アリマス、法律ヲ以テ國ヲ治メルト云

フコトニナリマスカラ、立法院ト云フ

モノハ、絕對ニ必要ナモノデアリマス、

立法院ト云フモノガナケレバ、立憲政

體ト云フモノハナイノデアリマス、是

レ故ニ立法院ト云フモノヲ根柢カラ破

壞スルコト云フコトハ、立憲政治ヲ破壞

スルモノデアアルト斯ウナルノデアリマ

ス、而シテ立法院ハ如何ナルモノデア

ルカト申シマスレバ、我が憲法ノ沿革

ニ徴シ、代議政體ト云フモノガ根幹デ

アル、斯ウ云フ風ナ意味ニ於テ代議政

體ヲ變革スルコト云フコトヲ茲ニ禁止ス

ル、斯様ナ次第デアリマス

○比佐委員 只今ノ説明ニ依リマス、

代議政體ヲ保存スルコトガ何時モ政體ノ

根幹デアアルト云フ御話デアリマス、ガ、

例ヘバ現在ノ制度ニ於テハ、所謂立法、

司法、行政トノ三ツニナツテ居リマス、

之ヲ混淆シ、之ヲ統一スル、例ヘバ政府

ハ議會ニ依ッテ選ブ所ノ者ヲ以テ委員

トシ、裁判所モ議會ノ權能ニ移スト云

フヤウナコトノ議論ニ對シテハ、ドウ

云フ風ニ御考デアリマス

○山岡政府委員 三權ノ分立ヲ前提ト

シテ、立法院ノ存在スルコト云フコトガ

今日ノ立憲政治ノ特徵デアリマス、ソレ

デアリマスカラ彼我紛更スルコトハ許

ス可カラザルコトデアリマス、故ニ立

法府ト云フモノハ立法ヲ基礎ト致シテ

居リマス、豫算ノ決議權ガ之ニ伴ッ

テ居リマス、其立法院ニ裁判權ヲ附屬

セシメ、行政權ヲ附屬セシメルト云フコ

トハ、即チ立法院ヲ破壞スルモノデア

ル、即チ左様ナ變革ハ即チ根本ヲ變革

スルモノデアアル、サリナガラ今日ニ於

テ司法ト行政トハ他ノ部分ニ於テ別ノ

機關ニ委ネル、或ハ司法ト行政トヲ一

緒ニスル、斯ウ云フコトガアツタ場合ニ、

ドウナルカト云フト、ソレハ本法ニ於

テハ保護ノ目的物ニシナイト云フダケ

ノコトデアアル、其他ノコトハ他ノ法律

ニ依ッテ保護スル、他ノ法律ニ委ネレバ

宜シイト、斯ウ云フ意味デアリマス

○比佐委員 此點ニ付テモウ一ツ伺ヒ

マス、例ヘバ時代ガ變化致シマシテ、

隨テ法律ノ變更モ必要デアアル、進ンデ

ハ憲法ノ變更モ必要デアアル、憲法ノ變

更モ一部分ハ宜シイ、大部分ハ惡イト

云フカラ、此憲法ノ大變更ヲ目的トシタ

結社ハ、當然此法律ノ適用ヲ受ケルノ

ダラウト思ヒマス、政府ノ御意見ハ……

○山岡政府委員 部分ノ問題デゴザリ

マス、其部分ノ中ニ國體政體ヲ根

本カラ變革スルコト云フコトガアル、若

クハ私有財産制ノ根柢ヲ否認スル、

即チ所有保護ノ法文ヲ變革シテ行クト

云フコトデアリマス、本法ニ牴觸

致シマス、ソレガ這入ッテ居ラナケ

レバ憲法ノ他ノ部分ヲ改正スルコト云フ

コトハ、本法ノ關係スル所デナイノデ

ゴザイマス

○比佐委員 ソレデハ第三ノ點ニ付テ

伺ヒマス、私有財産制度ノ否認デアリマ

スルガ、私ノ考ヲ以テ見マス、日本

ノ現在ノ狀態ニ於キマシテハ、絕對的

ノ私有財産制度ト云フモノハ無イト思

ヒマス、私有財産制度ハ殆ド相對的ノ

モノデアアル、例ヘバ憲法ノ第二十七條

ノ「日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルル

コトナシ」ト立派ニ書イテアリマス、

ガ、法律命令ニ依ッテハ其所有權ヲ侵サ

ル、ノデアリマス、此二十七條ノ意味

ヲ反對ニ解釋シマスルコト云フト、國家

ハ其所有權ヲ侵スコトヲ得ト云フ條文

デアリマス、此意味ニ於テ所有權モ相

對的ノモノデアアルト思フノデアリマ

ス、制限シ得ルノハ矢張合法的ニ議會

ヲ通ジテ立法ノ手段ニ依ッテ所有權ヲ

侵セバ、幾ラデモ侵セルト思フノデア

リマス、殊ニ公益ノ文字ハ今マデハ非常

ニ狭イ範圍ニ用ヒラレテ居ルガ、具體

的立法ノ解釋ト致シマシテハ、公益ノ

文字ハ非常ニ廣ク解釋サレル傾向ノ有

ルコトハ明カデアリマシテ、詰リ多數

ノ利益ノ爲メト云フ風ニ公益ノ文字ガ

解釋サレマス、ソレニ依ッテ所有權

ハ段々縮小サレルト思フノデアリマ

ス、必要ニ應ジテハ所有權其モノ、一

部分ヲ否認スルコトモ出來ル、制限ス

ルコトモ出來ル、此意味ニ於テ、絕對的

ノ所有權ハ無イト思フノデアリマス、

此點ニ付テ政府ノ答辯ヲ求メマス

○山岡政府委員 私有財産ニ關シマス

コトハ絶對性ノ無イト云フ點ハ御同感
デアリマス、唯、併ナガラ制度ヲ否認ス
ルト云フ問題ハ——根本ヲ否認スルト
云フコトニ關聯致シテ居ルモノデアリ
マス、其意味ニ於テ此場合ニ於テハ、
絶對的ニ變更ヲ許サス、此法律ニ依ッテ
之ヲ禁止スルト、斯ウ云フ意味デアリ
マス、即チ刑罰ヲ以テ禁止スルダケデ
アリマスカラ、此法律ヲ變更スルトカ
何トカ云フ問題トハ別問題デアアル、斯
ウ云フノデアリマス、ソレ故ニ其以外
ノ關係、根本ニ於テ觸レナイ關係ニ
於ケル所有權關係、其他ノ財產關係ト
云フモノハ、全ク相對的デアッテ、ドウ
變更シテモ構ハヌノデアアル、故ニ今日
ノ經濟關係ヲ改革スルト云フ運動ニ
依ッテ、改革ノ行動ガ現ハレマシテモ、是
ハ本法ニハ關係ガ無イ、殊ニ公益ノ爲ニ
スルナラバ如何ナルコトデモ出來ル、
此解釋ニ付テモ全ク學者ニ依ッテ議論
ガ異ッテ居ルノデ、廣ク解釋スル事ガ段
段進ンデ居ル、是ハ御意見ノ通りデア
ル、サリナガラ此規定ト云フモノヲ本
末顛倒スルト云フコトハ、決シテ憲法
ノ精神デハナイノデアリマス、本ハ矢
張第一項ニ示ス所ガ本デアリマス、公
益ノ爲ニ已ムヲ得ザル處分ハ法律ノ定
ムル所ニ依ッテ之ヲ行フ譯デアリマス、
其本末ヲ顛倒スルマデノコトハ、政府
ニ於テハ今日考ヘテ居ナイ所デアリマス
○比佐委員 今度ハ逆ナ意味ニ於テ伺
ヒマスガ、例ヘバ極端ナ例ヲ言ヘバ、

露西亞ノ共產的ノ政府デアッテモ、所
有權ハ認メテ居ルト思フノデアリマス、例
ヘバ私ノ著テ居ル著物ハ露西亞ノ政府モ
所有權ヲ認メテ居リマス、私ノ持ッテ居ル此
煙草モ私ノ所有權ヲ認メテ居リマス、其意
味ニ於テ共產主義政府デアッテモ、絶對的
ニ私有財產制度ヲ否認スルコトハナイ
ト思フ、此意味ニ於テ私有財產制度ヲ
否認スルト云フ言葉ガ、ドノ邊マデ行ッ
テ居ルカラ御伺シタ次第デアリマス
○山岡政府委員 只今御説明ノ如キ手
廻リノ物ヲ所有スルガ如キコトハ之ニ
依ッテ所有權ノ根本ヲ認メテ居ルト云
フコトハ言ヘナイノデアリマス、サウ
云フコトハ當然ナコトデアリマス、著
テ居ル物ハ占有權ガアリマス、占有權
ヲ認メルト云フコトハ是ハ昔カラ法律
ヲ俟タナイ、手廻リノ物ガ彼ノ所有デ
アルト云フコトハ所有權ト言ヘナイ、
是ハ明カナ話デアリマス、ソレ以外ノ
モノハ公有デアアル斯様な見解ハ即チ所
有權ノ根本ヲ否認スル見解デアアル
○比佐委員 然ラバ手廻リ物、手廻リ
物デナイト云フ範圍ヲ御伺シタイ
○山岡政府委員 ソレハ只今御示シノ
ヤウナ物、若クハ日用ノ衣食ニ必要ナ
ル家具、斯様な物ハ勿論手廻リ物デア
リマス、ソレガ更ニ延ビテ住宅ハドウダ
ト云フヤウナコトニナレバ、多少問題
ニナリマスケレドモ其住宅ノ問題ト云
フモノガ、矢張所有權ヲ公有ニ移シテ
後ノ所有權ハ全部認メルノダト云フ意

味ニ於テハ、所有權ノ根本ヲ否認シタ
ト云フ譯ニ行カヌト思フ、但シ家ヲ沒
收スルト云フ觀念ハイカヌノデアリマ
ス、即チ其一部ニ所有權否認ノ觀念ガ
現レテ居リマス、根本ヲ否認シナケレ
バ左様な觀念ハ出テ來ナイ
○比佐委員 是ハ餘リ極端デアリマス
ガ、家ヲ沒收スルコトハ惡イ、私ノ著
テ居ル著物ヲ沒收スルコトハドウデアリ
マス
○山岡政府委員 勿論イカヌノデアリ
マス
○比佐委員 其點ニ於テ私有財產ノ根
本觀念ニ於テ、私ハ政府ノ意見ガマダ
ハッキリシテ居ラヌト思フ、今ノ問題ニ
付テハ尙ホ御尋スルコトニシマスガ、
私ノ考ヲ以テ致シマスレバ、資本家ト
労働者、有產階級ト無產階級ノ利害ト
云フモノハ、或程度迄調和ヲ保チマス
ガ、或程度以上ハ調和ガ保テナイト思ッ
テ居ル、資本家ノ利益デアアルコトハ勞
働者ノ不利益デアアル、労働者ノ利益ヲ
主張スルコトハ資本家ノ不利益ニナル
ト云フ意味ニ於テ、相當ニ階級闘爭ト
云フ事實ハ拔クベカラザル事實ト思フ
ノデアリマス、然ラバ労働者階級ガ今
後日本ノ社會ニ於テ、自分等ノ利益ヲ
圖ルノハ如何ナル方法ニ依ルカト云
フコトハ、不穩ナル所謂革命、暴動ニ
依ッテ資本家ノ有產階級ヲ征服シテ、自
分ノ利益ヲ圖ルト云フ一ツノ方法ト、
一步退イテ合法的ニ自分等ノ味方ヲ澤

山議會ニ送ッテ、議會ノ多數ニ依ッテ立
憲の方法ニ依ッテ自分等ノ利益ヲ圖ル
ト云フ、當然來ルベキ運命ト私ハ考ヘ
テ居ルノデアリマス、然ルニ今迄再三
伺ヒマス所ニ依ルト、議員ガ議員相當
ノ權限ニ依ッテ、議會ニ於テ斯様なルコ
トヲスルノハ宜イガ、議員以外ノ者ガ
自分等ノ利益ヲ圖ランガ爲ニ是カラ自
分等ノ味方ヲ澤山造ッテ代議士ヲ議會
ニ送ッテ多數ノ力ニ依ッテ合法的ニ自己
ノ利益ヲ圖リタイト云フ院外的ノ運動
ハ、絶對ニ之ニ依ッテ禁止サレルノデア
リマセウカ、其點ヲ御伺致シマス
○山岡政府委員 其點ハ今後ノ政治運
動、社會運動トシテ頗ル大切ナ點デア
リマシテ、段々申上ゲタ所デアリマス
ガ、更ニ申上ゲテ置ク必要ガアル、本法
ニ依ッテ私有財產制度ヲ保護スルト云
フ點ハ、全ク所有權ヲ否認スルト云フ
觀念、例ヘバ今ノ沒收スル、斯ウ云フ觀
念ガイカヌト云フノデアリマス、其觀
念ヲ持タナイデ、其觀念以外ニ於テ只
今御説明モアリマシタ公益ノ爲メ必要
ナル處分ト云フ意味ヲモット廣ク段々
伸バシテ行ク、法律ヲ以テスレバ所有
權ノ制限ト云フモノハ自由デアリマ
ス、ソコデ所有權ノ本當ノ根幹ダケ殘
シテ置イテ、後ノ所ハ皆變ヘテシマフ、
是ハ極端ナ例デアリマス、本法ノ敢テ
關係スル所デナイノデアリマス、ソレ
故ニ今後ノ世ノ進運ニ從ヒマシテ、合
法的ニ合理的ニ社會ヲ改革シ、經濟關

係ヲ改革スルト云フコトハ少シモ差支
ナイコトデアアル、ソレデアリマスカラ
議會ニ法案ヲ提出シテ行クト云フ意味
ニ於テ、外ノ運動ト提携スルコトモ亦
認メル所デアリマス、只今迄外ノ提携
ヲ許サスト云フコトハ、所有權ノ根幹
ヲ否定スル所ノモノ、ソレダケヲ許サ
ヌ、斯ウ云フ意味デアリマス、ソレ故ニ
此法律ヲ施行シタカラト云ウテ、今日
迄ノ社會運動、勞働運動ニ對シテ支障
ハナイ、是ハ本會議ニ於テ國務大臣ヨ
リ屢言明シタ所デアリマス

○比佐委員 小川司法大臣ノ説明ニ依
リマスレバ、所有權ヲ否認スルト云フ
コトハ、土地國有モ宜イ、生産機關ノ國
有モ宜イ、唯國有ニスル場合ニ有償デ
アラネバナラヌト云フ御説明デアッタ
ノデアリマス、有償デアレバ觀念ニ於テ
ハ私有財産制度ヲ否認スルト云フコト
ニナラヌト云フ説明デアリマシタガ、
今申ス通り公益ト云フ意味ニ於テ、無
償デ國家ガ之ヲ徵收スル、國有ニシテ
シマフト云フノニ有償デ以テスル範圍、
公益ト云フ意味ニ於テ無償デ之ヲ國有
ニシテシマフ範圍ヲ明確ニ御説明ヲ願
ヒマス

○山岡政府委員 小川司法大臣ヨリ述
ベマシタ所ノコトハ、賠償ヲスレバソ
レハ所有權ヲ否認スルコトニハナラナ
イト云フ答モアリマシタ、併ナガラ今
日迄屢々其點ニ付テ御答ヘ申シタノデア
リマシテ、之ヲ綜合致シマスト其觀念

ガ賠償シタニシテモシナイニシテモ、
所有權ト云フモノヲ否定スルノナラバ
イカナイ、否定シナイナラバ宜イ、斯ウ
云フ意味ニ説明サレテ居ルデアリマ
ス、ソレデ賠償シタト云フコトハ所有
權ヲ否定シナカッタト云フ一ツノ證據
調書デアアル、ソレカラ賠償ナシニ國家
ニ必要ナル警察處分ヲスル、是亦認め
ナケレバナラヌ所デアリマス、警察處
分其他之ニ類似スル所ノ處分ニ非ズシ
テ、私有財産ヲ取上ゲテ賠償シナイト
云フコトハ、憲法ノ想像シナイ所デア
ラウト思フノデアリマス、即チ法律ト
云フモノハ、法文自體ニソレガ見エナ
イニ致シマシテモ、總テノ法律關係ヲ
綜合シテ其精神ヲ判斷シナケレバナラ
ヌ、二十七條ハ同様な精神デ出來テ居
ルコトハ疑ナイ事實ト考ヘルノデアリ
マス

○比佐委員 私ハ今ノ御答辯デハ分リ
マセヌガ、精神サヘアレバ賠償シナク
テモ私有財産制度ヲ認めタト云フコト
ニナルト云フ一ツノ意思主義、然ラバ
私有財産制度ヲ認めルト云フ意思サヘ
アレバ、無償デドシ——之ヲ引上ゲテ
モ宜イト云フコトニナリマスカ

○山岡政府委員 意思主義ト御解釋ニ
ナツテハ困ルノデアリマス、意思ガアル
ヤ否ヤト云フコトハ此法律其他ノ總テ
ノ法律ニ於テ、外界ニ或ル行動ガ現レ
マシテ、其行動カラ其意思ト云フモノ
ヲ認定シナケレバナラヌ、外界ニ何等現

レナイ意思ト云フモノハ、法律上ノ問題
ニハ絶對ニナラヌ、是ハ法律ノ根本問
題デアリマシテ、頭ノ中ニアル事ハ法
律論ニ於テハ支配シナイノデアリマ
ス、イツデモ外界ニ出テ居ラナケレバ
ナラヌ、外界ニ現レテ居ル意味ニ於テ
私有財産ノ存在ヲ認めルト云フコトデ
ナケレバナラヌノデアリマス

○比佐委員 外界ニ現ハレルト云フノ
ハドウ云フ意味デアリマスカ、無償デ
モ外界ニ現レルト云フ場合ガアリマセ
ウカ

○山岡政府委員 ソレハ先刻モ申上ゲ
タヤウニ、警察上ノ處分デ、例ヘバ病氣
ノ牛ヲ殺スト云フガ如キ、是ハ賠償シ
ナイデ殺シテモ已ムヲ得ヌコトデアリ
マス

○比佐委員 私ハ所有權ノ根本觀念ニ
付キマシテモ政府ノ意思ガハッキリ分
ラナイト思ツテ居リマス、最後ニ斯様な
司法官ノ自由解釋ノ範圍ノ廣イコンナ
法律ヲ拵ヘテ、之ヲ今後——今ノ内閣
時代ハ宜シイト致シマシテモ、今後ド
シナ專制的政治家、武斷的政治家ガ出
テ、内閣ヲ組織シマシテモ、之ヲ逆用ス
ルト云フ事ハ絶對ニシナイト云フ保障
ヲ與ヘラレマスカ、ドウデアリマスカ

リマス、併ナガラ本法ハ誰ガ見テモ中々
微妙ナ所ノ深い議論ヲスレバ、成程所
有權ノ根本觀念ニ付テモ多少ノ疑アル
ヤウナ風ノ御説明モ出來マセウ、併ナ
ガラ一般觀念カラ惣ヘテ、所有權ノ根
本ヲ破ル所ノ觀念ハドウ云フ觀念デア
ルカト云フコトハ非常ニ分リ易イ問題
デアアル、此觀念ガ破ラレヌ以上ハ本法
ノ適用ハ受ケナイノデアリマス、議論
ヲスレバ際限ナイ話デアリマスガ、ド
シナ一ツノ理窟デモ、非常ナ微妙ナ點
ニ互ツテ議論ヲスレバ是ハ際限ナイ、ケ
レドモ所有權ノ觀念ト云フモノハ今日
認めラレテ居ル、其所有權ノ觀念ノ根
本的觀念ト云フモノハ如何ナルモノデ
アルカト云フコトハ、又諸君ガ御承知
ノ通りデアアル、此觀念ヲ根本的ニ否定
シサヘシナケレバ、些末ナ點ニ關シマ
シテハ本法ノ問フ所デアハナイ、而シテ
先刻來段々御話ガアリマスルガ、所有
權ノ觀念ハ段々變ツテ來ル、所有權ノ限
界ト云フモノモ推移シテ行ツテ國政ノ
狀態ト云フモノガ亦變ツテ來ル、例ヘバ
「キルド、ソシアリズム」ト云フモノガ
善イト云フ考ガ段々國人ノ觀念ニ惣ヘ
テ、ソレガ宜シイト云フコトニナツタナ
ラバ、即チ其時代ニ於テハ本法ハ廢止
ノ時代ニ到著スルノデアリマス、即チ
其所有權ノ根本觀念ト云フモノニ誤リ
ナイ以上ハ、其根本觀念ヲ破壊セザル
以上ハ本法ノ適用ハ受ケナイ、斯ウ御
承知ヲ願ヒタイノデアリマス

○熊谷政府委員 段々御話ガアルヤウ
デアリマスガ、所有權ノ觀念モ段々時
代ニ依ツテ變ツテ居ルト云フコトハ、皆
様御承知ノ通りデアアル、幾ラカ制限的
ニナツテ行クト云フコトハ其通りデア

○比佐委員 只今常識デ分ッテ居ルカラ餘リ深イ質問應答ハ必要ガナイト云フ御話デアリマスガ、是レ最モ間違ッタ考デアリマシテ、少クトモ斯様ナ重大法案、國民ノ權利ヲ拘束スルヤウナコ

ンナ重大法案ニ對シテハ、徹底的ニ其法ノ精神ノ在ル所ヲ御互ニ之ヲ慎重審議スルコトハ當然デアルト思フノデアリマス

○熊谷政府委員 私ハ明瞭デアルカラ議論ヲスルナト云フ事ヲ申上ゲタノデハナイ、本法ノ所有權ノ政府ノ觀念ト云フモノガ不確定デアルト仰シヤルカラ、サウデハナイ、所有權ノ觀念、根本觀念ト云フモノハ皆様御承知ノ通りハッキリシテ居ルモノデアアル、此所有權

ノ根本觀念ト云フモノヲ打破スル時ニ於テ、初メテ此本法ノ適用ヲ受ケルノデアルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス

○比佐委員 私ハ矢張所有權ノ根本觀念ニ付テモ政府ハハッキリシテ居ナイト云フコトヲ斷言致シマス、最後ニ問ヒマシタス様ナ空漠タル條文ヲ、今後如何ナル專制的ノ政治家ガ内閣ヲ組織シテモ之ヲ逆用シテ民權ヲ壓迫スルヤウナ事ヲシナイト云フコトヲ、今ノ政府ガ保障出來マスカドウデアリマスカト云フコトヲ伺ヒマス

○熊谷政府委員 其點ハ御意見デアリマスガ、御意見ニ付キマシテハ政府ハ只今ノ御意見トハ變ッテ居ルト思ヒマス、是ノ根本觀念ト云フモノガ明瞭デア

アル以上ハ、其適用ニ付テモ餘リ心配ハ要ラヌト考ヘマス

○比佐委員 要スルニ私ハ今迄ノ應答ニ於テハ私ノ疑問ハ一ツモ解ケナイト云フ事ダケ申上ゲマシテ是デ打切りマ

ス

○前田委員長 中村君、土屋君、マダ内務大臣ガ見エマゼヌガ、留保ナサイマスカ——サウスルト委員ノ方ハ大體終ッタノデアリマスガ、過日來山口政二君カラ委員デハナイケレドモ質問ヲシタイト云フ申出ガアリマスガ、許シテ差支アリマセスカ

○前田委員長 ソレデハ山口君

○山口政二君 大體速記録ヲ通覽シマシテ重複シテ居ナイト思フ點ヲ御尋ネシタイト思ッテ居リマスケレドモ、併シ重複シタ點ハ政府ノ説明ガ分ラナイ點デアルト云フ風ニ解釋ヲ願ッテ、改メテ御答辯ヲ願ヒタイ、昨日カ山杵君ガ聽カレタヤウデアリマスガ、國體ノ事ニ付テハ相成ベクハ觸レタクナイト考ヘルノデアリマスケレドモ、抑、治安維持法ノ冒頭ニ持ッテ行ッテ「國體」ト云フ言葉ヲ掲ゲテ居リマス、サウシテ其國體ト云フ言葉ハ政府ノ説明ニ依ルト憲法第一條ガ之ヲ明カニシテ居ル、國民ノ確信デアルカラ之ニ付テハ多クノ説明ヲ要シナイト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、其通りデアリマスガ、然

ラバ國體ノ變革ト云フヤウナコトヲ企圖スル者ハ日本國民ニハ一人モ居ナイ筈デアアルニ拘ラズ、冒頭ニ此自明ノ理ニナッテ居ル所ノ國體ノ變革ト云フヤウナ言葉ヲ掲ゲタト云フコトハ、何等カ政府ニ於テ豫想サレタ點ガアルカ、若クハ國體ノ變革ト云フ言葉ヲ觀念上ハアリ得ルトシマシテモ、具體的ニ斯ク斯クノ事ガ國體ノ變革デアルト云フヤウナコトガ、政府トシテハ明確ニ御説明ガ出來マスカドウカト云フコトヲ御伺ヒ致シタイ

○山岡政府委員 國體ノ事ニ觸レテ質問應答スルコトヲ避ケタイト云フコトハ御同感デアリマス、併ナガラ茲ニ既ニ之ヲ書キ現シタ、如何ナル故ニ之ヲ書キ現シタカ、必要ナキニ尙ホ且ツ之ヲ書キ現ハシタノデハナイカト云フ疑問ヲ御持チニナッテ居ルヤウデアリマス、成程國體ノ變革ナント云フコトハ吾々一般國民ガ想像スルコトサハ既ニ宜シクナカラウト思フノデアリマス、併シナガラ是ハ道德論デアリマス、國家道德ニ於テ正ニ斯ノ如クナラナケレバナラヌモノト考ヘマス、然レドモ國

民ノ多數ナル、如何様ナ事ガ起ルカト云フコトハ吾々ノ豫想ノ出來ナイコトデアアル、之故ニ國體ニ關シマスル事又ハ皇室ニ關シマスル事ガ、刑法等ニ於テ既ニ規定サレテ居ルノデアリマス、是ニ於テ本法ヲ制定スルコト云フコトハ最も大切ナ我ガ國家ノ關係ヲ保護センガ

爲ニ規定致シマシタノデ個人關係ニ於テハ所有權ト云フモノサハアレバ、他ノ事ハドウナリマシテモ先ヅ今日ノ社會狀態ハ維持出來ル、即チ生命ト所有權ガアリマシタナラバ、吾々ノ生存ト云フモノヲ安固ニシテ行ケルト云フ考デ、即チ唯一ツソレダケヲ茲ニ掲ゲマシタ、是同ジ公ノ意味ニ於キマシテハ代議政體ト云フモノナカリセバ今日ノ政體ハナイノデアアル、之故ニ之ヲ掲ゲテ變革ヲ許サナイ斯様ナ次第デアリマスカラ、國體ハ我ガ國家ニ於テ歴史

的ノ關係ニ於テ永久ニ之ヲ保存スベキ次第デアリマスガ故ニ、最モ重キモノトシテ茲ニ之ヲ示スコトガ相當デアルト考ヘタ次第デアリマス、道德關係カラ申シマスレバ、御説ノヤウニ斯ノ如キ事ハ豫想スベカラザルノモノデアアル、法律關係カラ申シマス、最モ重大ナル法域デアリマスカラ、之ヲ他ノ二者ノ法域ト共ニ掲グルコトガ適當ナリト考ヘタノデ、別ニ斯ウ云フ事故ガ豫想サレル、斯ウ云フ事故ガアルデアラウト云フコトヲ少シモ考ヘテ居ラヌノデアリマス

○山口政二君 只今ノ御答辯ニ依リマスト道德上トシテハ掲グル必要ハナイノデアルケレドモ、法律論トシテハ國體ノ變革ト云フ重大ナコトデアルカラ、冒頭ニ掲ゲタト云フ風ニモ考ヘラレル、シテ見ルト私ハ道德論デナク、モウ一步其點ニ付テ御同致シタイ、或ハ山杵

第五類第十八號 治安維持法案(政府提出)委員會會議錄 第六回 大正十四年三月四日

一七

君外諸君カラ御質問が出タカモ知レマセヌガ、法律論トシテ考ヘテ見マシテ、例ヘバ憲法上ノ争ニナツテ居リマシタ大臣責任論ト云フコトニ付テ一定ノ説ハ私無イト思ツテ居リマス、併シ大臣ノ責任ハ議會ニ對スルモノデアルト云フコトヲ述ベ、サウ云フ演説ヲシタ場合ニ於キマシテ是ハ政府ト致シマシタハドウ云フ風ニ御取扱ニナルノデアリマスカ

○山岡政府委員 御質問ノ點ハ本法ニハ兎ニ角關係ハゴザイマセヌ、唯併ナガラ此責任ガ議會ニ對シテ負フモノデアルカ、君主ニ對シテ負フモノデアアルカト云フコトハ、學說ノ岐ル、所デ、實際ニ於テ色々ナ疑問ガゴザイマス、サウ云フ疑問ヲシタ場合ニ朝憲案亂ニナルカナラヌカ、即チ他ノ法律關係デアリマス、理論ハサウ云フ風ニ學說ガ堂ト分レテ居ルノデ、之ヲ論ジタカラトテ朝憲ヲ案亂シタト私ハ言ヘナイト思ヒマス

○山口政二君 モウ一ツ御尋シマスガ、憲法上ニ於テ法律ハ陛下ノ御裁可ヲ要スル、サウシテ又事實常ニ御裁可ヲナサルノデアアル、此場合ニ於キマシテ、法律論トシテ不裁可アルベカラズト云フヤウナ説ヲ立テ、ソレヲ演説ヲ致シ、乃至新聞紙ノ論文ニ書クト云フヤウナコトニ付テ、政府當局ノ教ヲ受ケタイノデアリマス

○山岡政府委員 ソレハ矢張本法ニ關係ハゴザイマセヌ、然レドモ御裁可ハ常ニナクテハナラヌト云フガ如ク論議スルコトハ、一面ニ於テハ其筆法ニ依レバ不敬罪ニナリ、一面ニ於テハ朝憲ノ案亂ト云フコトニナラウト考ヘマス

○山口政二君 サウシテ見ルト、澤山斯ウ云フ例ヲ舉ゲテ見ルト、ソレハ本法ニハ關係ガナイ他ノモノニ依ルト云フコトニナツテ來ル、要スルニ道德論トシテハ無論揭グル必要ハナク、又法律論トシテモ之ヲ豫想スルコトノ出來ナイコトデアルト考ヘラル、ガ、果シテ然ラバ道德論ニ於テハ勿論、法律論ニ於テモ玆ニ國體ノ變革ト云フ豫想ヲ揭グル必要ガナイヤウニ、政府當局ノ御説明ヲ承リタイノデアリマス、此點ニ付テ如何デス

○山岡政府委員 此點ハ道德論トシテ問題ハ、國民道德トシテ斯ノ如キ事ガアリ得ベカラザル又想像シテハ相成ラヌコトデアアル、斯ウ云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、法律上ニ於テ最モ重キ法域トシテ、無政府主義ヲ論ズル關係ニ於テ、此重キモノヲ揭グルト云フコトガ、即チ本法ハ國家ノ最モ重要ナル法域ヲ示シ、ソレダケヲ保護スルモノデアルト云フ意味ガ明瞭ニナル、ソレヲ國體ト云フモノヲ此處カラ除キ去ルト云フト、何ガ故ニソレヲ除キ去タト云フ反對論が出テ來ル、他ノ輕イ法律、治安警察法以下サウ云フモノデ宜シイカ、サウ云フ輕イモノデハイカ

○山岡政府委員 其通りデゴザイマス

○山口政二君 サウシテ見ルト若シモ吾ガ一面ニ於テ議會制度ヲ信認シテ居ルケレドモ、他ノ一面ニ於テ或ハ國民大會或ハ人民投票、名義ハドウデモ宜シイケレドモ、サウ云フモノヲ吾ミガ設ケテ、吾ミノ行動ノ準則ヲ定メルト云フヤウナ主張若クハ其思想、是等ハ第一條ノ點ニ於キマシテ、殊ニ政體ノ關係ニ於テ當局ハドウ云フ風ニ御扱ニナリマスカ

○山岡政府委員 一般投票トカ之ニ類スルモノニ依ツテ吾ミノ行動ノ準則ヲ定メヤウト云フ御説デアリマス、之ヲ道德上ノ準則トスルト云フナラバ、敢テ問フ所デアリマセヌ、事實左様ナ事ヲスルノモ亦社會ノ傾向ヲ察知スルニ於テ利便ガアルダラウト思ヒマス、併ナガラ法律論トシテ一般投票ニ依ッテ法律ヲ確定シ、之ヲ國民ガ遵守スベキモノデアアル、斯ウ云フ建前ニナリマ

スレバ、代議政體ハ即チ破壞サレル觀念デアリマス、サウナレバソレハ即チ本法ニ依ツテ取締ラル、モノデアリマス

○山口政二君 サウスルト此代議政治ノ爲シ得ベキ範圍ニ付テノ人民投票若クハソレニ類スルモノハイカヌト、斯ウ解釋シテ宜シウゴザイマスカ

○山岡政府委員 ソレハ少シ廣クナリマス、代議政體ニ於テ爲シ得ル範圍ト云フモノハ、即チ議會政治ニ於テ爲シ得ル範圍ト云フモノハ、非常ニ廣イ、併ナガラ立法ト云フコトハ代議政體ニ缺クベカラザル要件デアリマス、立法シナイコトニナリ、一般投票ニ依ツテ立法シ、議會ハ豫算ノ審議デモスルト云フコトニナレバ、議會ノ本體ハ失ハレルコトニナリマスカラ、其意味ニ於テ本法ニ抵觸スルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス

○山口政二君 段々世ノ中ガ複雑ニナルト、議會政治ヲ信認シツ、尙且ツ國民投票ト云フコトガ起リ得ルト考ヘマス、其場合ニ於テハ議會政治ノ根本ヲ否認セズシテ尙且ツ人民投票若クハソレニ類スルモノガ存在シ得ルト考ヘマス、若シ政府デサウ云フコトヲ全然豫想セヌト云フコトデアレバ別デアリマスガ、私共ハサウ云フ事ハ豫想サレ得ルト考ヘマスガ、是ハ事實上ニ於テ此法律ガ成立スルナラバ、非常ナ支障ヲ來ス場合モ私共ハ豫想サレ得ル、併ナガラサウ云フ場合ニ於テ、只今ノ御説明ニ

○山口政二君 是レ以上御尋スルコトハ寧ろ差控ヘタ方ガ宜シイト思ヒマスノデ、國體ニ付テハ是レダケニ止メマス、政體ト云フ言葉ニ付テハ諸君ノ質疑應答ノ結果、稍、明確ニナリマシタガ、是ハ矢張代議政治等ノ制度ト解釋シテ宜シウゴザイマスカ

依ルト甚ダボンヤリ致シテ居ルヤウニ思ヒマス、サウ云フモノガ外國ニアルカ知ラヌケレドモ、日本ニ絶對ニナイ、現ニ無イカラ宜シイデナク、將來起ツタ場合ニソレヲドウ御扱ニナルト云フコトヲ明確ニシテ置キタイ

○山岡政府委員 ソレハ只今申上ゲタルヤウニ、事實上ニ於テサウ云フ事ヲ行フコトハ、本法ニ關係ハナイノデア、併ナガラ法律上之ヲ行ツテ立法權ハ議會ヨリモ寧ロ一般投票ニ依ルモノデアル、斯ウ云フ事ハ憲法ヲ變更シナイ限ハ出來ナイコトデア、サウ云フ譯デアツテ、此處ニ絶對ニ之ヲ保護シテ居ル譯デアリマスカラ、左様ナ事ハ本法ニ依ツテ常ニ取締ラル、譯デア

○山口政二君 次ニ比佐君モ御尋シテ居ッタヤウデアリマスガ、労働運動ノ場合デアリマス、政府ハ屢々此法律施行ノ爲ニ正當ナル労働運動ニ一ツモ支障ヲ來サヌト云フコトヲ御説明ニナツテ居ラレマスガ、此労働者ノ賃銀、労働ト云フモノハ生産ノ決定要件デアルト云フコトヲ固ク信ジテ、サウシテ生産機關ノ獨占ヲ主張シテ居ル所ノ一ツノ結社、若クハ運動ノ起ツタ場合ニ、政府ハ此法律ヲ斯ル労働運動トノ關係ニ付テ、ドウ云フ風ニナサレマスカ

○山岡政府委員 生産機關ノ獨占ト云フコトニナルト、即チ經濟上ニ於ケル支配ヲ労働者ノ手ニ收メルコトニナラウト思ハレマスガ、サウ云フ御意見デ

アリマスルト云フト、即チ私有財産ノ根本ヲ否認スルト云フコトニナリマス

○山口政二君 生産機關ノ獨占ハ私有財産制度ノ否認トナルト云フ御説デアリマスガ、是ハサウデハナイト思ヒマス、意見ノ相違カモ知レマセヌガ、資本主義ノ否認ト云フコト、労働者ガ關係シタル或ル仕事ノ生産機關ヲ獨占スルト云フコトハ、具體的ノ個々ノ場合デアツテ、或ル種ノ事業ニ付テノ生産機關ヲ或ル團體ガ獨占シテモ、其範圍ニ於テハ、觀念上私有財産制度ノ否認ノ如キ外形ヲ取ルカモ知レマセヌガ、併ナガラソレト同時ニ資本主義、私有財産制度ノ根本的ノ破壊ト云フ風ニハ取ラレナイト思ヒマス、此點ニ付テ御説明ヲ願ヒマス

○山岡政府委員 此點ニ付テ特ニ申上ゲテ置カナケレバナラヌ點デアリマス、生産機關ノ獨占ト云フコトノ御質問デアリマシタカラ、我國ニ於ケル全生産機關ヲ労働者ニ於テ獨占スルト云フ意味デ、御答ヲスルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、サウ云フ意味デナク、各個ノ工場ヲ生産機關ガ、労働者ノ物トシテ、之ヲ運用シテ行クコトガ、互ノ利益デアツテ、斯ウ云フ見地カラ次第ニ歩ヲ進メテ、資本家トモ協調ガ取レルコトニナツテ、サウ云フ事ガ一ツノ工場ニ於テ出來タトスルト、ソレハ毫モ關係ハ無イノデアリマス、詰リ勞資ノ協調ヲ爲シテ、労働者ノ利益ヲ十分増

進シ、資本ノ關係ヲモ亦保護スルト云フ關係ニ於テ進ムコトガ、今日ノ經濟關係ニ於テ順調ナル進路デアラウト思ヒマス、其順調ナル進路ヨリシテ左様ナル工場ガ出來タト云フ場合ニハ、本法ニハ少シモ關係ハ無イノデアリマス、所有權ノ觀念ヲ認メテ居ル前提トシテノ活動デアルカラ、今後ニ於テ社會問題ヲシテ益々共存共榮ノ意味ニ導クト云フコトハ、本法ニ於テ之ヲ取締ル譯ニハ行キマセヌ

○山口政二君 只今ノ御説明デ能ク分リマシタ、隨テ労働者ノ或ル生産機關ヲ獨占シテモ、本法ニ觸レヌト云フ御説明デ満足致シマシタガ、或ル労働團體ガ生産機關ヲ國有ニシテ呉レ、若クハ公有ニシテ呉レ、乃至ハ自分達ト國家トノ共有ニシテ呉レト云フ程度ノモノデアッタラ、尙更本法ニ觸レヌヤウニ思ヒマス、サウスルト極メテ寛大ナル理解ノアル御取締ガ、労働運動ニ對シテ出來ルコト、思ヒマスガ、一ツ伺ヒタイノハ、現政府當局、若クハ山岡政府委員ノ如キ御立派ナル方ミナラバ結構デアリマスガ、併シ、労働運動ヲ一ツノ社會的現象ト見ル場合ニ於テ、運動ソレ自體ガ洵ニ結構ナル方向ニ進メバ社會改革ノ運動トナリ、少シ間違ヘバ社會主義、モット或ル種ノ危險ナル手段ヲ弄スル所ノ共產主義トモナリ得ル危險性ガアルノデアリマス、サウスルト労働運動ソレ自體ニ對シテ、此法ノ運用上若シモ

色眼鏡デ見ルナラバ、果シテ是ガ社會政策的ノモノデアルカ、或ハ革命的ノモノデアルカ、或ハ國家社會主義的ノモノデアルカ、其區別ガ明瞭デナイ場合ガ起リ得ルト思ヒマス、シテ見ルト政府ハ何等危險ガ無イト云フコトヲ屢々聲明サレテ居リマスケレドモ、十分此點ヲ御注意アツテ然ルベキコト、考ヘマス、此點ニ付テ將來此法ヲ制定シタル政府トシテ、此運用上ニ付テ十分御考ヘノ上デナサレタコトデアルカ、此點ヲ御聽キシタイト思ヒマス

○山岡政府委員 此法案ハ今日進ミツツアル所ノ労働運動、社會運動、其物ヲ阻止スルト云フガ如キ考デハ少シモナイデアリマス、最モ注意ヲシテ本法ニ依テ、保護スル所ノ事柄ハ、極メテ重大ナル三ツノ點ニ止ツテ居ルノデアリマス、之ヲ今マデノ取締法ニ於ケル朝憲紊亂、安寧秩序紊亂ト云フコトト對比致シマスルト、最モ大切ナ部分ニ止ツテ居ルノデ、其他ノ事ハ本法ニ關係ハアリマセヌ、ソレ故ニ今日マデ他ノ法律デ取締ツタモノヲ、之ニ依ツテ阻止スルト云フコトニハナリマセヌ、只今御説明ノ如キ社會主義、其他ノ見地カラ種々ナル實際的活動ノ起ツタ場合ニ、之ヲ甄別スルニ如何ニスルカト云フコトハ御尤デアリマスガ、サウ云フ廣イ意味ニ於テ茲ニ私有財産制ヲ保護スルノデハナイノデアリマシテ、所有權ノ觀念ヲ否定シタル所ノ所有權ヲ沒

收スルト云フ意味ニ於テノミ、取締ルノデアリマス、左様ナルコトガナクシテ勞資互ニ其關係ヲ好クシテ、向上セシメルト云フガ如キ部分ハ、本法ノ全ク關係ノ無イコトデアリマス、尙ホ附加ヘテ申上ゲマスガ、本法ニ於テハ行爲ノ方デ、結社、協議、煽動、斯ウ云フ風ニ具體的ニナツテ居リマスルノデ、精神狀態ナドハ本法ニハ關係ハ無イノデアリマス、是ダケノ行動ガ現ハレタ場合ニ罰スルノデアリマス、之ニ依ッテ實際ノ問題ニ對シテ特ニ影響ハ無イト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

○山口政二君 此法律ノ目的トシテ居ル所ノ主要ナル點ハ共產主義、無政府主義ノ取締ト云フコトニ承ッテ居リマスガ、多クノ場合ニ於キマシテ、是等ノモノハ只今申サレルヤウニ、行爲ヲ取締ルト云フノデ、其現レガ多ク暴動的手段デナケレバナラス、シテ見ルト何モ特ニ斯ウ云フ法律ヲ御作リニナラナクモ、其等ハ既定ノ刑法ニ依リマシテ豫備的ノ者、又陰謀的ノ者ハ嚴罰ニ處スル規定モアリマス、特ニ此法律ヲ作ッテ二重ニナルヤウナ氣ガ致シマスガ、何カ此點ニ付テハ特別ナ意味ガゴザイマスデスカ、承リマス

○山岡政府委員 御説明モアリマシタ通り刑法其他ノ現行法ハ主トシテ此暴行脅迫若クハ之ニ類スル範圍ノ方面ノ取締ノ規定ガ出來テ居ルノデアアル、ソレデアリマスルカラシテ今日ノ世界大

戰爭以後我國ニ影響シテ居ル思想ハ、必ズヤ經濟界、政治界、社會方面ニ於テ何等カノ進歩發展ヲシナケレバナラヌ狀況ニアルノデアアル、斯ウ云フ機運ニ於テ此儘之ヲ放任シタナラバ刑法ニ於テ取締ラナケレバナラヌヤウナモノガ發生シナイトモ限ラヌノデアリマス、是ニ於テ其狀態ヲ發生セシメザルベク危險ノアル行爲ヲ未然ニ之ヲ防遏スルト云フノガ目的デアリマス、此事ニ付テハ尙ホ前ニモ申述ベタコトデアリマスルガ、十九世紀ニ於ケル社會ノ活動關係ト云フモノハ、ソレニ對シテ世界各國ニ必要ナル法律ガ出來テ居ッタノデアリマス、十九世紀ノ中頃カラ以後ニ於テ社會現象ニ殊ニ經濟的運動カラ急激ナル變化ヲ起シテ居ルノデアリマス、其影響ガ世界大戰以後我國ニ來テ居ルノデアリマス此現象ニ付テ全ク取締ガ缺ケテ居ルト申シテ宜シイノデアリマス、ソレ故ニ其現象ヲ此法律デ以テ取締ラナケレバナラヌト云フ見地デアリマス、ソレデアリマスカラ此三ツノモノヲ掲ゲテ結果ヲ豫メ防止スルト云フ意味デアリマス

○山口政二君 今ノニ關聯シテモウ一ツ承リマスガ、私ノ御同致シマシタ點ハ御説明ハ能ク分リ、マシタ、併シ此國體、政體ヲ變革シ、私有財産制度ノ根本的否認ト云フヤウナ國家ヲ侵害スベキヤウナ事柄ハ單純ナ暴行デアルトカ或ハ單純ナ教唆デアルトカト云フヤウナ

モノデハ起リ得ナイソナモノハ治安警察法ノ一年以下ノ懲役宜イト思フ然ルニ斯ウ云フ特別法、天下悉ク此法律ヲ見張ツテ居ル云フヤウナ大法律典ヲ出ス場合ニ於テ、必ズ其對象トスル所ハ暴動手段ヲ以テ居ルモノデナケレバナラヌト思ヒマス私ノ申上ゲルノハ刑法ノ内亂若クハ陰謀ト云フヤウナ方面カラ必ズヤ政府當局ニ於テハ取締リ得ルト考ヘマス、若シサウデアアルナラバ此法律ハ必要ハナイ、斯ウ云フコトニナルノデアアルガ、其關係ハドウカト云フコトヲ御尋申上ゲタ次第デアリマス

○山岡政府委員 此點ハ政府ニ於テハ斯様ニ考ヘルノデアリマス、即チ暴動手段ヲ以テ社會若クハ國家ノ關係ヲ改造シヤウ、斯ウ云フ事ハモウ十九世紀ニ於ケル方法デアリマシテ、今日ハ斯様ナ事ハ餘リ恐ルルニ足ラヌノデアリマス、總テノ交通機關其他ノ關係デ發達シテ居リマシテ、斯ノ如キ事ニ依テ政府ガ顛覆サレルト云フヤウナコトハ先ヅ豫想ハ出來ナイト申シテモ宜シイ位デアリマス、新シキ現象ハ科學的ニ、文化的ニ、或ル多種ノ方法ヲ用ヒテ進ミツ、アルノデアリマス、ソレハ外國ニ於テモ此頃暴行ナドハ廢メマシテ、人ニ對シテ暴行ヲ加ヘルナドト云フコトハ廢メテ、「ヒマシ」油ヲ飲マシテ之ニ依テ動ケナイヤウニシテシマウト云フガ如キ文化的——言葉ハ惡イカモ知ラヌガ——文化的ノ侵害方法ヲ講ジテ居

リマス、是ト同様ニ此結社ヲ成シテ次第ニ自分ノ仲間ヲ拵ヘテ、ソレカラ協議ヲ爲シ、煽動ヲ爲シ次第々々ニ此柔カキ——柔カキト申シテ少シ語弊ガアリマスガ、サウ云ツタル手段ヲ以テ暴動ヲ以テスルヨリモ、モット恐ルベキ結果ヲ招來シヤウト云フ傾向ニアルノデアリマスカラシテ、此故ニ斯ノ如キ取締法ヲ必要ト致ス譯デアリマス

○山口政二君 サウ致シマス御説ノ如クンバ文化的ニ色々ノヤサシイ方法デ以テ、而モ暴動以上ノ結果ガ起ル、而モサウ云フ其文化的ノ方法ハ現行法デハ取締レナイカラ、此法律ヲ出スノダト云フヤウニ承ッタノデアリマス、ソレデサウ云フ其暴動以外ノ方法デ潜在的ノ方法デアリマスカ若クハ其新シイ色色ノ方法デ此等ノ危險ガ生ジタ場合ニ之ヲ取締ルト云フノガ此法律ノ目的デアルトスルナラバ、一ツ疑問ガ生ジマス、サウ云フモノ、取締ノ爲ニ此治安維持法ニ依リマシテ是ハ非常ニ危險ダト、暴動以上ニ危險デアルト云フ認定ノ下ニ、此十年以下ト云フ極刑ヲ場合ニ依ルト似テ非ナル者ニマデモ應用シヤウト云フコトニナツテ參リマス、素ヨリ御説ノ如ク本當ニ恐ロシイモノハ、是ハ如何ニモ最極刑ノ嚴罰ニ處シテ宜シイデスカ、併シ有ユル複雑ナル社會現象ニ對シテ之ヲ適用スル場合ニ於テ認定的ニ、而モ極刑ヲ科シテ或ハ或場合ニハ言論ノ抑壓トモナリマス、集會ノ自

由ノ抑壓、行動ノ抑壓トモナリマス、サ
ウ云フ事ヲ平穩——私ハ平穩ト今信ジ
テ居リマス、如何ニ思想界ガ混亂シテ
居ッテモ、兎モ角モ平和ト信ジテ居リマ
ス、此平和ノ時ニサウ云フ恐怖的ノ手
段ヲ以テ嚴罰ニ處スルト云フコトガ、私
トシテ、諒解ニ苦シム、是ガ今何カ戒嚴
令デモ布カレテ居ルトカ、或ハ敵國ト
交戰狀態デアッテ、外國ト通謀シテ内亂
ヲ起スカ分ラヌ、非常ナ混亂時期デア
ルト云フナラバ兎モ角モ、大體ニ於テ
思想界ハ安定シツ、アル、兎ニ角而モ
社會ノ司直ノ認定デサウシテ十年以下
ト云フヤウナ極刑デ遣付ケラレルト云
フヤウナコトハ、戰時非常ノ場合ハ卒
知ラズ、今日サウ云フ時代デナイト云
フコトヲ私ハ思フノデアリマスケレド
モ、政府ハサウ云フ必要ガアルト見テ
出スト云フノデアリマスカラ、私トシ
テハ其點ハ諒解ニ苦シムノデアリマス、
ドウカ此事ヲシテ國民全般ガ納得スル
ヤウナ御説明ヲシテ戴キタイト思ヒマ
ス

ラ、政府ト致シマシテハ此法律ヲ運用
スルト云フコトニ付テハ、些ノ違算ガ
アッテハナラヌノデアリマス、ソレデア
リマスカラシテ、此行爲ニ付テモ色々
ニ研究ヲ致シマシタ結果、煽動、宣傳若
ク、流布ト云フ、現ニ治安警察法ニゴ
ザイマスル「流布」ト云フヤウナ字ハ廢
メマシテ「煽動」ト云フ一步進シテ強
イ意味ノ行爲ヲ現ハシタノデアリマス、
ソレカラ尙ホ保護ト云フ方面ニ於キマ
シテモ繰返シテ申上ゲマスルガ、非常
ニ之ヲ狹メテシマツテ、此等ノ用意ハ可
ナリニ周到デアッタト云フコトヲ申上
ゲテ宜シイ譯デアリマス、斯ウ云フ次
第デアリマスルカラシテ此法律ニ依ッテ
今日ノ平和狀態ヲ脅威スルヤウナコト
ハ毛頭ナイ次第デアリマス、之ヲ運用
スル結果ヲ御覽下サレバ宜シイノデア
リマス、將來ノコトデアリマス、過去ニ
於キマシテハ治安維持令ト云フモノガ
アリマシテ、其治安維持令ニハ此法律
ノ第三條ニアル通りノコトガアリマス、
ソレニ依ッテ司法警察官、檢察官ガ如何
ナルコトヲナシタカト言ヘバ、毫モ社
會ニ脅威ヲ與ヘテ居ラヌ、何等ノ影響
ヲ國民ハ感ジテ居ラヌ、ソレト大體ニ
於テ變ラヌト云フコトハ大體ニ於テ申
上ゲテ宜シイノデアリマス、決シテ此
法律ヲ以テ今日ノ狀態ヲ脅威シ、變更
スルヤウナコトハナイノデアリマス、
何卒左様ニ御承知ヲ願ヒマス
○山口政二君 私ハ是デ質問ヲ打切り

マス
○前田委員長 今内務大臣ニ質問ヲ留
保セラレタ人ヲ除クノ外、質問ノ通告
者ガ見エマセヌガ、内務大臣ノ出席スル
マデ暫時休憩シヨウト思ヒマスガ……
○山岡政府委員 一寸申上ゲマス、豫
審ニ掛ッテ居リマス事件ノ内容ヲ申上
ゲタイト思ヒマス、固ヨリ此豫審事件
ハ不日公判ニ附セラレマスノデ、皆様
ノ前ニ公開サレルコトデアリマス、故
ニ公開ノ席デ申上ゲテモ差支ナイノデ
アリマス、特ニ秘密會デナケレバ申上
ゲラレナイト云フコトデアリマセヌ
ガ、目下豫審ニ掛ッテ居リマスカラ、秘密
會ニ於テ申上ゲタイト思ヒマス、決シ
テ公ニスルコトヲ嫌フ意味デアリマ
セヌガ、其點ヲ御諒承ヲ願ヒマス
○中村委員 何カ秘密會デ御話ガアル
サウデアリマスガ、其機會ニ内務省デ
蒐集セラレテアリマス宣傳文書、或ハ
圖畫等此法案ヲ維持シヤウト云フ目的
ニナルヤウナ文書ヲ御示シテ願ヒマス
○川崎政府委員 皆様ノ御希望デアリ
マスレバ、秘密會デ御覽ニ入レルコト
ハ差支アリマセヌ
○土屋委員 只今中村君カラ御請求ガ
アリマシタガ、其材料ヲ取寄セラレル
マデノ間、只今ノ山岡サンカラノ御話
ヲ秘密會ニシテ承リタイト思ヒマス
○前田委員長 政府ノ方カラ秘密會ヲ
要求ニナリマシタカラ、秘密會ニシテ
宜シウゴザイマスカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」
○前田委員長 ソレデハ秘密會ニ致シ
マス
午後三時五十五分秘密會ニ入ル
午後四時五十九分秘密會ヲ終ル
○前田委員長 只今カラ公開致シマス
○清瀬委員 昨日山岡政府委員ニ伺ヒ
マシタノデアリマスガ、國務大臣ニ御
答辯ヲ願ヒマス爲ニ、答辯ノアツタ點デ
アリマスガ、留保致シマス、又議論ハ別
ニスベキ機會ガアリマスカラ、議論ニ
涉ラヌヤウニ、簡單ナ形式デ伺ヒマス
カラ、簡單ナ形式デ「イエス」「ノー」ヲ
伺ヘバ宜イノデアリマス、問題ハ二ツ
殘ッテ居リマス、一ツハ本法ノ政體ト
云フコトハ代議政體デアアル、今ノ制度
デ言ヘバ衆議院、民選議院デアアル、此
存在ヲ否定スルノガ政體ノ變革デア
ル、但シ衆議院ノ權能ノ犯サル、コト
ハ政體ノ變更デハナイ、權能ハ餘リ保
護シタ意味デハナイ、斯ウ云フ結論ニ
ナッテ居リマス、ソレデ行ケルカドウカ
疑問デアリマス、ソレニ對シテ三權分
立ノ意味カラ言ッテ、天皇ノ名ヲ以テ爲
シタル所ノ司法制度、之ヲ否定スルノ
モ政體ノ變更デナイカト云フコトヲ聽
カレマシタラ、岩崎君ハ矢張變更ダト
言ヒマシタガ、司法大臣ハソレハ政體
ノ中ヘ入ラヌ、斯ウ云フ御答辯デアリマ
ス、モウ一ツ殘ッテ居ルモノハ何カト云

フト、天皇ノ大權ヲ統治サルト云フコトハ國體デアル、併ナガラ天皇ガ陸海軍ヲ統帥サレ、樞密院ニ諮詢シテ條約ヲ締結サレ、宣戰講和ヲサレ、其事自體ハ國體ノ中デハナイト政府委員ハ言ハレタ、從ッテ問題ハ政體デハナイ、國體デモナイト云フコトニナリマスカラ、天皇ノ大權ニ向ッテ言議指斥致シ、日本ノ 天皇ヨリ陸海軍ノ統帥權ヲ奪フト云フト言葉ハ惡イノデアリマスガ、無クスルトカ、或ハ宣戰講和ノ權利ヲ國民ト共ニ行使サル、ト云フ、即チ統帥權、宣戰講和ノ權、條約締結權等ニ付テノ言議指斥ト云フモノハ、暴行脅迫デ行ケバ別デアルガ、合法行爲デヤツタ場合、本法ノ中ニ這入ルカドウカ、此點デアリマス

○小川國務大臣 サウスルト矢張私ガ伺ッテヤウナ譯デアリマス、天皇ノ大權即チ憲法ノ第一條ニアリマス「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」トアル、此大權ヲ取ルトカ——取ルト云フ言葉ハ甚ダ穩カデナイガ、簡單明瞭ニ申シマシテ、取ルトカ變ヘルトカ云フコトハ、無論國體ノ變革ニ入ルト思フノデアリマス、併ナガラ 天皇ガ大權ヲ行使セラル、ニ當ッテ大權ヲ行使ナサル方法ニ付テハ色ミゴザイマセウ、或ハ帝國議會ニ依ッテ立法權ヲ行ハル、トカ、或ハ行政機關ニ依ッテ行政權ヲ行ハル、トカ、陸海軍ノ統帥權ニ付テモ統帥ヲ行ハルノニ色ミノ機關ヲ設ケテ行ハル、ノデアリマス、即チ其行使ノ方法ニ付テハ色ミ變ハルコトハ一向差支アリマスマイガ、大權ノ變革ト云フコトハ國體ノ變革ニ入ルト考ヘマス

○清瀨委員 此取ルト云フ言葉、是ハ日本帝國ニ天皇ノマシマスコトハ炳乎トシテ日月ノ如クデ、洵ニ失言デアリマシタ、サウデナクシテ 天皇ガ民選議院ヲ經テ實行ナサル、是等モ矢張政治

治上立法權ハ議院ニ在ルト言ヒマスケレドモ、實ハ議院ニナイ、法律カラ言ヘバ矢張 天皇ノ權能デス、議院ハ參與スル形式デアルコトハ日本憲法學ノ一致スル所、今此大權ハ民選機關ガ參與ノ形式ハ採ルガ、天皇御親裁ニナッテ居ル、唯條約ダケハ樞密院ニ御掛ケニナリマスガ、樞密院ハ諮問府デアリマスカラ、獨立ノ機關ト云フ風ニ行カナイ、此 天皇ノ大權行使ノ形式ノ變更、議院政治否認ト云フデモ實ハ大權行使ノ形式ノ否認ニ異ナラス、此意味ニ於テ逆ニ 天皇ノ大權ヲ行使サル、ニ議院ノ參與ヲ要スル、或ハ日支同盟ヲ致シテ陸海軍ヲ共同出兵スルニ議院ノ同意ヲ要スルトカ、斯ウ云フ大權ニ關スル制限ト云フコトハ暴行脅迫ヲ以テスル場合ハ別ニ定マッテ居ルガ、合法手段ヲ以テスル場合ニ是ハ這入ラナイノデア

○小川國務大臣 第一ノ御問ハ代議制度ニ限ルノデアリマスカラ、其點ノミ代議制度ヲ否認スルト云フコトダケデアリマス、隨テ續イテ御問ニナツタ所ノ裁判所ヲ廢スルト云フコトハ昨日取消シマシタ通り、政府委員ノ言ツタコトハ間違ッタノデアリマス、第二ノ御問ハ一寸此處デ私相談シテ聽損ツタカモ知レマセヌガ、天皇ノ大權即チ陸海軍ヲ統帥スルトカ、大權ヲ奪フト云フコトハドウカト云フ御問デアツタと思ヒマスガ、サウ承知シテ宜シウゴザイマス

○小川國務大臣 大權ハ今清瀨君ノ御行使ノ方法ニ付テハ變ヘテモ差支ナイ、帝國議會ニ於テヤツテ御居デニナル、或ハ樞密院ニ御諮詢ニナル、其諮詢ニナルノヲ止メテ、他ノ機關ニ御諮詢ニナルト云フヤウナコトハ差支ナイ、大權其モノヲ制限スルト云フコトニナレバ、是ハ日本ノ國體ヲ變更スルコトニナリマス

○小川國務大臣 大權ヲ行使スル方法トシテ各種ノ機關ヲ備ヘル、ソレガ憲法ニ於テ規定シテ居リマス、帝國議會トカ、樞密院トカ、様々アルケレドモ、憲法ニ規定ノナイモノデモ、或ハ宣戰講和ニ付テ御諮詢ニナルトカ、色ミノコトヲナサル、是ハ大權ヲ御使ヒナサル方法ニ過ギナイ、大權其モノハ國民ガ之ヲ制限スルトカ、取ルトカ云フコトハ出來ナイ

○清瀨委員 行使ノ方法ハ這入ルト云フノデスカ

○小川國務大臣 行使ノ方法ニ付テハ變ヘテモ差支ナイ、帝國議會ニ於テヤツテ御居デニナル、或ハ樞密院ニ御諮詢ニナル、其諮詢ニナルノヲ止メテ、他ノ機關ニ御諮詢ニナルト云フヤウナコトハ差支ナイ、大權其モノヲ制限スルト云フコトニナレバ、是ハ日本ノ國體ヲ變更スルコトニナリマス

○清瀨委員 大權行使ノ方法ヲ制限ス

○小川國務大臣 大權ハ今清瀨君ノ御行使ノ方法ニ付テハ變ヘテモ差支ナイ、帝國議會ニ於テヤツテ御居デニナル、或ハ樞密院ニ御諮詢ニナル、其諮詢ニナルノヲ止メテ、他ノ機關ニ御諮詢ニナルト云フヤウナコトハ差支ナイ、大權其モノヲ制限スルト云フコトニナレバ、是ハ日本ノ國體ヲ變更スルコトニナリマス

○清瀨委員 大權行使ノ方法ヲ制限ス

○小川國務大臣 大權ハ今清瀨君ノ御行使ノ方法ニ付テハ變ヘテモ差支ナイ、帝國議會ニ於テヤツテ御居デニナル、或ハ樞密院ニ御諮詢ニナル、其諮詢ニナルノヲ止メテ、他ノ機關ニ御諮詢ニナルト云フヤウナコトハ差支ナイ、大權其モノヲ制限スルト云フコトニナレバ、是ハ日本ノ國體ヲ變更スルコトニナリマス

○清瀨委員 大權行使ノ方法ヲ制限ス

○小川國務大臣 大權ハ今清瀨君ノ御行使ノ方法ニ付テハ變ヘテモ差支ナイ、帝國議會ニ於テヤツテ御居デニナル、或ハ樞密院ニ御諮詢ニナル、其諮詢ニナルノヲ止メテ、他ノ機關ニ御諮詢ニナルト云フヤウナコトハ差支ナイ、大權其モノヲ制限スルト云フコトニナレバ、是ハ日本ノ國體ヲ變更スルコトニナリマス

○清瀨委員 大權行使ノ方法ヲ制限ス

○小川國務大臣 大權ハ今清瀨君ノ御行使ノ方法ニ付テハ變ヘテモ差支ナイ、帝國議會ニ於テヤツテ御居デニナル、或ハ樞密院ニ御諮詢ニナル、其諮詢ニナルノヲ止メテ、他ノ機關ニ御諮詢ニナルト云フヤウナコトハ差支ナイ、大權其モノヲ制限スルト云フコトニナレバ、是ハ日本ノ國體ヲ變更スルコトニナリマス

○清瀨委員 大權行使ノ方法ヲ制限ス

○小川國務大臣 大權ハ今清瀨君ノ御行使ノ方法ニ付テハ變ヘテモ差支ナイ、帝國議會ニ於テヤツテ御居デニナル、或ハ樞密院ニ御諮詢ニナル、其諮詢ニナルノヲ止メテ、他ノ機關ニ御諮詢ニナルト云フヤウナコトハ差支ナイ、大權其モノヲ制限スルト云フコトニナレバ、是ハ日本ノ國體ヲ變更スルコトニナリマス

○清瀨委員 大權行使ノ方法ヲ制限ス

ルコトハ少シモ差支ガナクテ、憲法ニ依ッテ大權ヲ行使スルコトハ別ノコトニ見ルノデアアルカ、是ハ如何デアアルカ

○小川國務大臣 ソレガ我國ノ國情トシテ立法機關ナルモノハ最モ重イモノデ、先般來度々申上ゲテ居ルヤウニ、明治天皇ノ大御心ニ依ッテ憲法ガ出來テ、是ガ日本國情ニ最モ適當シタモノデアッテ、ソレニ依ッテ政治ヲ御ヤリニナルコトハ、日本ノ古來カラノ國情ニモ適シテ居ル、最モ是ハ大切ナ事デアリマス

○清瀨委員 サウシマス親裁ヨリ大權ガ自由ニ發動スルコトヲ、此法律ヲ以テ規定スル、或ル機關ヲ以テ、天皇ノ大權行使ノ自由ヲ矢張制限スルト云フ犯罪ニ向ッテ之ヲ罰スル、帝國議會ニ於テノ大權行使ノ自由ヲ制限スレバ有罪ニナルガ、他ノ大權行使制限ノ場合ハソレデ宜シイノデアリマス

○小川國務大臣 何ト御解釋ニナッテモ御勝手デアリマスガ、併ナガラ大權ノ行使ト云フノハ憲法ニ依ッテ規定サレテ居ルノデ、ソレガ大憲行使ノ方法デアル、立法權、行政權、司法權、是ハ皆ソレデアアル、併ナガラ前申シマスル通り帝國議會ト云フモノハ最モ重イモノデアアル、司法——裁判所ハ法律ニ定メタル裁判官ヲ以テ組織シテサウシテ之ニ依ッテ裁判ヲスルト云フコトニ決メラレテ居ル、併ナガラ是ハ先刻來御答辯申上ゲテ居ルヤウニ、是マデモ議會ノ制度ヲ壞サウトスル者ガアル、ソレ

デ之ヲ罰スル、是ハ議會ト云フモノデ大權ヲ行使スルモノデアアルカラ、之ヲ罰スルコトハ大權ヲ行使サセル一ツノ方法デアアル、ソレデ之ヲ罰スル、斯ウ御諒解ヲ願ヒタイ

○清瀨委員 大權ノ行使ノ方法トシテハ「モンテキユース」ノ三權分立ニ依ッテ行ハレルノデ、其中ノ立法機關ガ吾等ニ下シ賜ッタモノデ立法スル機關デアアル、ソレヲ勝手ニ打壞サウトスル者ガアレバソレハ心外千萬ノコトデアリマス、併ナガラ貴族院ヲ廢止スルコトハ合法的ニ廢止スレバ罰セラレヌガ、衆議院ヲ廢止スルト云フコトニナレバ罰スルト、斯ウ仰シヤル、是ハ如何デアリマス

○小川國務大臣 一院制度ト云フノハ貴族院ヲ廢シテシマフト云フ制度デアリマセヌ、今ノ貴族院ノ制度ト衆議院ノ制度ト一ニシヤウト云フノガ一院制度デアアル、今兩院協議會ト云フモノガアリマスガ、是等一院制度ト云フモノハ本法ノ中ニハ這入リマセヌ、左様御承知ヲ願ヒマス

○清瀨委員 是ハ代議制度ヲ破壞スルコトガイカヌノデアアル、更ニ詳シク申セバ民選議院ノ制度ヲ破壞スルノガイカヌノデアアルカラ之ヲ罰スルノデアアル、貴族院ハ御話ノ如ク縮メテ之ニ一緒ニシテモ差支ナイ、サウシテ本法ニハ這入ラナイト仰シヤル、併ナガラ貴族院ハ廢止シテ宜シイ、吾ミガ廢止スルト

云フ意見ヲ有ッテ居ル譯デアアリマセヌガ

○小川國務大臣 今日ノ兩院制度ハ洵ニ日本ノ國情ニ適シテ宜シイノデアアル、併ナガラ貴族院ヲ認メヌト云フノハ罰セナイガ、代議制度ガ認メラレナケレバ罰スル、ソレナラバ罰セラレナイカラ貴族院ハ廢シテ宜シイノカト云フト、矢張何處マデモ兩院制度ハ必要ナノデアアル、此處ハ明瞭ニ致シテ置キタイ

○清瀨委員 今日ノ貴族院ハ改革シナケレバナラヌ、是ハ別問題トシテモ、貴族院ヲ廢スルコトハ處罰サレナイ、斯ウ云フ趣意ニナリマスシ、サウ云フ風ニ貴族院ノ方デモ承ッテ居ル、併シ是ハ御意見ハ御意見トシテ了承シテ、是デ質問ヲ打切りマス

○前田委員長 ソレデハ質問ハ是デ終了致シマシタ、明後日午前九時、即チ六日午前九時ニ開會致シマシテ、討論シテ此案ヲ採決致シタイト思ヒマス、左様御了承ヲ願ヒマス

午後五時二十一分散會

第五類第五十八號 治安維持法案(政府提出)委員會議錄 第六回

大正十四年三月四日

大正十四年三月五日印刷

大正十四年三月五日發行

衆議院事務局

印刷者 民友社